No 162

# 中国鸟类志

## 下卷 雀形目

ZHONGGUO NIAOLEI ZHI

吉林科学技术出版社

# ウグイス科
# メボソムシクイ属

## 450. チフチャフ（叽咋柳鶯・棕柳鶯 *Phylloscopus collybita* Vieillot）

英名 Chiffchaff；Eurasian Chiffchaff，Brown Leaf Warbler；Common Chiffchaff

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長 11～13cm．体の上面は淡褐色を帯びたオリーブ緑色，ことに肩羽と腰はより明らか．細い淡黄白色の眉斑．体の下面は淡い肌色の黄色．

ヒガシチフチャフ (東方叽咋柳鶯 P. sindianus) と本種は非常に似ており，野外において識別するのは困難である．しかし，ヒガシチフチャフの体の上面はオリーブ緑色でなく，灰色を帯びており，体の下面はより淡色である．両者は鳴き声も異り，チフチャフはより低い鳴き声で“chi-vi，chi-vi…”と鳴き，Eastern Chiffchaff はより高い声で，“tissiyun，tissiyun…”と鳴く．この他両者は風切羽の型式が異り，チフチャフでは第２風切羽の長さが第７と第８風切羽の中間，あるいはこれらと同等の長さで，Eastern Chiffchaff の第２風切羽の長さは，第９あるいは第 10 風切羽の長さと同等である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面は褐色，換羽したばかりにはしばしばオリーブ緑色を帯びることがあり，ことに，腰，肩羽の緑色が目立ち，しかし，夏季の旧羽や風切羽と尾羽の羽縁の緑色は明らかでないか，全く見られない．眉斑は淡い肌色を帯びた黄色あるいは黄白色で，鼻から耳羽の後まで，細長く引かれている．目先から．眼を通して後まで黒褐色の過眼線がある．頭側と体の下面は肌色を帯びた黄色で．頬，喉，腹部はそれより淡い．翼下雨覆と腋羽は硫黄色．

虹彩は暗褐色，嘴は黒褐色あるいは黒色で，下嘴の基部は色が薄い．脚は黒色あるいは黒褐色で，脚の下面は黄色．

**各部位の測定**　体重♂7.3～8.5g，♀6～8g．体長♂110～130mm，♀95～125mm．嘴峰♂8～10mm，♀11～12mm．翼長♂57～66mm，♀53～65mm．尾長♂43～55mm，♀41～49mm．跗蹠♂17～22mm，♀19～21mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内での分布は新疆北部の富蘊（フウユン），アルタイ，西部のカシュガル，天山山地とアクス等の地域で，冬季は香港でも見られる．国外分布はスカンジナビア半島から南へ北ヨーロッパ，地中海に到り，東はバルカン半島，小アジア，コーカサス，ウラルから西へシベリア，アルタイ地方，中央アジア，ヒマラヤ山地等広く，冬季はインド，パキスタン，小アジア，アラビア地方，北アフリカで越冬する．

本種はかつてヒガシチフチャフ (東方叽咋柳鶯 *Phylloscopus sindianus*) と同一種とされたが (Dement' ev and Gladkov 1954．Vaurie 1959．鄭作新 1976)，近来すでに彼らも異る種であることを認めている．

本種は７亜種に別れ，我が国には１亜種 (新疆亜種 *Phylloscopus collybita tristis*) が分布するのみである．しかし，Herlbig et al (1996) など形態と鳴き声の点等が明らかに異るとして，独立した種 *P. tristis* を主張する学者もいる．これらの鳥はウラル西部地域で分布が重なることもあり，これを別種とするかはさらなる研究が必要とされる．この亜種 (*P. c. tristis*) の国内分布は新疆北部の富蘊，アルタイ，西部の天山，カシュガルと阿克蘇（アクス）等の地域で，国外にはロシア，ペチョラ河からウラル地方の東部，エニセイ川，アルタイ山脈，中央アジア，インド北部，バングラデシュに到る地域に分布している．

この他我が国では見られない亜種，東北ヨーロッパ亜種 *P. c. abietinus* は，北欧スカンジナビア半島，コラ半島(約北緯68°)から南へヨーロッパ東部を経て黒海，カフカス地方に分布し，小アジア，アラブ地域で越冬する．基亜種の *P. c. collytbita* は，ヨーロッパ西部，イギリス，フランス北部，オランダ，デンマークから東へポーランド，南はフランス南部，イタリア，南スラブ，アルバニア，ブルガリア等に分布し，アフリカ北部で越冬する．カナリア亜種 *P. c. canariensis* は大西洋カナリア群島に分布し，蘭薩羅特亜種 *P. c.exsul* は大西洋の蘭薩羅特島に分布する．ピレネー亜種 *P. c. brehmii* はピレネー山西部から北アフリカに分布，トルコ亜種 *P.c. brevirostris* はトルコ北部と西部に分布する．

**生息環境と習性**　主要な生息域は標高2000m以下の低山帯で，丘陵，山麓平原地帯の様々な森林で見られ，とくに林床に潅木叢の発達した針葉樹林と，河畔林のヤナギ潅木叢で比較的多く見られ，沼沢地や河川敷のヤナギ林，ヨシ原などにも出現する．常に単独または番いで行動し，活発，敏捷，樹枝の間を止まることなく飛び交う．よく鳴き，ことに繁殖期間はよく鳴く．鳴き声は単調で，“chi-vi，chi-vi”と繰り返す．

**食性**　主に昆虫食，幼虫，虫卵，小型の無脊椎動物なども食す．

**繁殖**　繁殖期5～7月，潅木叢，あるいは草叢に営巣する．これらの地上に営巣するものもある．巣は草の茎や葉を編んで作られれ，ときにはコケ類を少し混ぜることもある，内側に羽毛を敷き，構造は粗雑，形状は球形，あるいは楕円形で，側面に開口部がある．巣の大きさは外径9～12cm，内径5～7 cm，高さ9～14cm，開口部直径3.5～4 cm，営巣は主に雌のみが行ない，雄は巣の付近で囀るのみ，ときには雌に従って巣材を運ぶこともある．1巣卵数4～7卵，卵は白色で小さな褐色あるいは紫褐色の斑点があり，大きさは14～5×11～12.7mm．抱卵は雌が受け持ち，13日で孵化する．雛は晩成，15日で巣立ちする．

**渡り**　夏鳥で，場所によっては留鳥．4月中下旬に渡来，9～10月に渡去．

**生息状況と保護**　個体数は少なく，常には見られない．

### 451．ヒガシチフチャフ (東方嘶咋柳鶯 *Phylloscopus sindianus*)

英名　Eastem Chiff-chaff. MountainChiffchaff

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長11～12cm．体の上面は褐色あるいは黒褐色，緑色を帯びることがない．眉斑は薄い肌色を帯びた黄白色．体の下面は肌色を帯びた黄白色，下雨覆と腋羽は白色．

チフチャフの外形，大きさは本種と非常に似ており，野外での識別は困難である．しかし，チフチャフは腰，両翼と尾羽が明らかに緑色あるいはオリーブ緑色を帯びる．体下面は比較的暗色，翼の下覆と腋羽が鮮やかな黄色．鳴き声もまた異る．チフチャフの鳴き声はより低く，“chi-vi，chi-vi…”と鳴き，ヒガシチフチャフではこれより高い声で“tissiyun，tissiyun”と鳴く．この他チフチャフでは第2風切羽の長さが第7羽と第8羽の間，あるいは第7羽，第8羽と等しい位置にあり，ヒガシチフチャフでは第2風切羽の長さが第9羽あるいは第10羽と等しい位置にある．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面は砂色，あるいは黒褐色，夏はより灰色が強く，灰黒褐色で，緑色あるいはオリーブ褐色は見られない．第2風切羽と尾羽の羽縁は肌色を帯びた黄色．眉斑は肌色を帯びた黄白色，過眼線は黒褐色．

虹彩は暗褐色，嘴は角色をした褐色あるいは黒色，下嘴の基部は淡黄色，脚は黒色あるいは黒褐色．

**各部位の測定**　体重6～8 g．体長♂110～120mm，♀106～113mm．嘴峰♂8～10mm，♀10～12mm．翼長♂510～630mm，♀510～570mm．尾長♂470～540mm，♀430～490mm．跗蹠17～22mm．

**地理的分布と亜種分化**　我が国では新疆西部の喀什，天山と南部山脈，チベット西部の班公湖，西南部の扎達と普蘭で繁殖分布する．国外ではコーカサス，アルメニアから東へ天山，崑崙山脈，パミール高原，パキスタン西北部，カシミール，ヒマラヤ山脈西北部に分布し，パキスタン，カシミール，インド北部で越冬する．

本種の分類に関して，異る意見がある．Brooks(1879)はカシミール地域の標本によってこの種が新種であると述べた．Baker(1924)はチフチャフ *P. collybita* との間に明確な違いがないのでチフチャフの1亜種であるとした．Dement'ev and Gladkov(1954)とVaurie(1959)も基本的にこの意見を支持し，本種がチフチャフの1亜種とした．その後，この意見は多くの学者の支持を得た(Ripley 1961，1982．Walters 1980．鄭作新 1976．De Sehauensce 1984)．しかし，本種を見た多くの人々が，形態，鳴き声，翼の羽式等の違い，また繁殖地の隔離状態から次々と多くの学者が本種が独立種であると唱えた(Wiliams 1974．Voous 1977．Martens & Meincke 1989．Houard & Moor 1991．Cramp 1992．鄭作新 1994．Inskipp et al 1996．Helbig et al 1996)，本書もまた独立種として処理した．

本種には2亜種あり，我が国にはそのうちの基亜種 *P. s. sindianus* のみが，新疆西部，南部からチベット西部，西南部に分布している．その他中央アジア，タジキスタン南部，パミール，パキスタン，ヒマラヤ山脈西部，カシミール崑崙山地等にも分布している．

別の亜種P. s. lorenziiはコーカサスからアルメニアに分布し，我が国には分布していない．

**生息環境と習性**　*P. s. sindianus* は高山，高原性の鳥類で，主な生息地は標高2500～5000mの高原山地である．繁殖期は好んで高山，亜高山帯の森林林縁部のマツ，シラカバの矮性林，ツツジなどの潅木叢と半ば乾燥し，荒れた斜面の潅木叢，開けた草地，高山のコケ原，渓谷にも生息する．冬季はインド北部，カシミール，パキスタン東北部の比較的標高の低い山地で越冬する．繁殖期は単独または番いで行動するが，冬季は2～3羽の小群をつくる．

**食性**　主に昆虫とその幼虫を食し，クモや小型の無脊椎動物も食べる．多くは潅木あるいは地上で採食するが，希には水面や空中で採食することもある．

**繁殖**　繁殖期は5～7月．営巣は地上あるいは濃い潅木叢にピッタリと寄り掛かって営巣する．巣材は枯れ草を編んで作られる．球形で側面に開口部があり，内部には細い草の茎と羽毛が敷かれている．1巣5～6卵，卵は長円形，白色でまばらに赤い斑点があり，ときには鈍端部に集まり環状をなすことがある．．卵の大きさは15～17×11.7～13.0mm(Baker 1924)．

**渡り**　夏鳥．所によっては留鳥．毎年4月中下旬渡来し，9～10月渡去する．

**生息状態と保護**　我が国におけるヒガシチフチャフの個体数は多くない．

### 452．ハヤシムシクイ(林柳鶯 *Phylloscopus sibilatrix*)

英名　Wood Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長約13cm，他のムシクイに比較して大きい．体の上面は黄緑色，眉斑は黄色，両翼と尾羽は黒褐色で羽縁は緑色．胸下から腹部は白色でその他の体下面は黄色．他のムシクイの体型はこれより比較的小さく，羽色もまた異り，ことに本種は黄緑色の体の上面と鮮黄色の頬，喉，眉斑と前胸部は他のムシクイと識別は容易である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面から前額，頭頂，肩，腰，上尾筒と全体の黄緑色

で，換羽を終えた秋季はことさらに鮮明である．両翼はやや長く黒褐色で，羽縁は鮮黄緑色，初列風切羽の第１羽は小翼羽より短い，長さ７～12mm，初列風切羽の第２羽の先端は第４羽と等しいか第３羽と第４羽の中間，もしくは第５羽との中間である．初列風切では第３羽が最も長い．尾羽は比較的短く，黒褐色で羽縁は鮮緑色．眉斑は黄色，過眼線は暗褐色，顔，頬，耳羽と頸側は黄色である．腮，喉，前胸部も黄色，後胸，腹，両脇と下尾筒は全て白色で，翼の下雨覆は淡黄色．第１年目秋の幼鳥の体上面は成長より黄色．ただし，風切羽は暗色である．

虹彩は暗褐色，嘴は褐色，跗蹠は黄褐色．

**各部位の測定**　体重♂10～11g，♀９g．体長♂122～142mm，♀120～140mm．嘴峰♂８mm．翼長♂68～80mm，♀68～78mm．尾長♂48～52mm．跗蹠17mm．

**地理的分布と亜種分化**　我が国のチベット中部で雄が観察されている(迷鳥)．国外の分布はノルウェー，スウェーデン，フィンランド，等スカンジナビア半島南部(約北緯64°)から西へイギリス，南のデンマーク，ポーランド，フランスを経て地中海沿岸のスペイン，イタリア，ルーマニア等バルカン半島，東へクリミア，コーカサス，ウラル，西シベリアまで分布する．越冬はアフリカ．渡りの期間はイラン北部，イラク，アラブ，中東，小アジア，ヨーロッパ南部，スペイン，地中海の島嶼，マラッカ，アルジェリア，サハラ等アフリカ北部を経てアフリカ中部赤道付近で越冬する．

亜種の分化はない．

**生息環境と習性**　主な生息地は標高1500m以下の針葉樹林，針広混交林，広葉樹林等に生息する．渡りの時期には果樹園や公園，住宅付近の森林でも見られる．常に単独か番いで行動し，活発敏捷に枝の間を動き回る．繁殖期にはよく囀り，はっきりと歯切れのよい高い声で続けて“zip，zip，zip…”と囀る．囀る時に，留まっている枝から直線的に空中へ飛び上がり，また，もとへ戻ったり，枝の間を忙しく跳び回るのを見かける．採食は枝葉を跳び回りながら行なわれる．

**食性**　森林における各種の昆虫を食べ．飛翔中の昆虫，クモ類，小型の無脊椎動物なども食す．

**繁殖**　繁殖期は５～７月．繁殖地へ渡来するとすぐ，なわばりを作り，囀りを開始する．営巣は林床の草叢で，枯れ枝や倒木の重なった下に作られる．巣は楕円形で，側面に開口部がある，ときには椀状のものもある．巣材は枯れ草と樹皮の繊維で構成され，内側には細い草の茎や獣毛などを利用している．営巣は雌が単独で行ない，３～４日で完成する(Niethammer 1937)．巣の外形は10～17.5cm，内径は６～８cm，深さ３～3.5cm，開口部径５～７cm．１巣卵数５～７卵，卵は白色で微細な紫褐色の斑点がある．卵の大きさは14～18×11.5～13mm，平均15×12.4mm(Gebel 1879)．抱卵は雌が単独で行ない，抱卵期間は13日．雛は晩成型，育雛は雌雄共同で行なう11～12日で巣立ちする．

**渡り**　我が国では迷鳥．

**生息状況と保護**　ハヤシムシクイ *Phylloscopus sibilatrix* はヨーロッパ，西シベリアで繁殖し，アフリカで越冬し，我が国では1979年９月21日チベットにおいて雄１羽が採集されたのみで，珍しい迷鳥である．

### 453．キバラムシクイ(黄腹柳鶯 *Phylloscopus affinis* Tickell)

英名　Tickells Willow Warbleri；Tickells Leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長10～11cm．体の上面はオリーブ緑色，過眼線は黒色，眉斑は黄色，体の下面は草黄色．

バフイロムシクイに似ているが，体の上面がオリーブ褐色，下面がシュロ色を帯びた黄色，眉斑は肌色黄色である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色あるいはオリーブ灰緑色，両翼と尾羽は褐色あるいは暗褐色，外弁の羽縁は緑黄色，中央尾羽の羽軸は白色，両翼の上には翼斑がない，風切羽の羽縁は緑黄色あるいは黄白色．眉斑は黄色で，長く幅広，嘴の基から後頭に至り，過眼線は黒色．体の下面は黄緑色あるいは草黄色，胸，頸側と両脇はオリーブ色を帯びる．下尾筒は深い草黄色，翼の下雨覆と腋羽は黄色．

虹彩は暗褐色，嘴は黒褐色，下嘴は黄色で先端が暗褐色，脚は黄褐色あるいはシュロ褐色．

**各部位の測定**　体重♂5～10g，♀5～10g．体長♂90～127mm，♀90～113mm．嘴峰♂8～11mm，♀7～11mm．翼長♂48～62mm，♀46～58mm．尾長♂40～54mm，♀39～53mm．跗蹠♂17～21mm，♀16～21mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内の分布は青海省東北部の門源（メンユアン），祁連（ジイレン），青海湖，東部の同仁，民和，貴南（ジアンザア），尖扎（ユイスウ），南部の玉樹，雑多（ナンビアン），甕謙，治多（ジウマサイ），曲麻莱，東南部の瑪泌（マアマイ），吉邁（ジマイ），沢庫（ゼクク）と柴達木盆地（チャイダム）東部の都蘭，甘粛省西北部の天堂寺，西部の蘭州，南部の武山，四川省北部の平武，松潘（スンパン），南坪（ナンピン），西北部の石渠（スウジュ），徳格，西部の康定，道孚（ドウフ），瀘定，宝興，巴塘，理塘，稲城，西南部の会東（ミイグ），美姑，中部の峨眉，成都，陝西省南部の秦嶺，貴州省中部の龍里，雷山，雲南省西部の盈江（インジヤン），龍陵，騰冲（ルウシイ），潞西，永平，瀘水，雲龍，漾濞（ヤンビイ）西北部の麗江，中甸，維西，寧蒗 怒江と瀾滄江間の山脈，中部の昆明，新平，チベット西部の獅泉河，扎達，西南部の普蘭，吉隆，南部の聶拉木（ニイラムウ），拉薩（ラサ），羊八井，日喀則，南木林，莫洛，金東，加美，加玉と昌都地区北部および西南部．国外の繁殖はパキスタン西北部，カシミールとインド北部，越冬はインド，ビルマ，タイ西北部に分布する

亜種分化に関しては，現在も異る意見がある．学者によっては *P. a. affinis* と *P. a. arcanus* の２亜種とし，前者の体上部はオリーブ色，後者はオリーブ色ではないとする (Vaurie 1959)．鄭作新は両者の区別は明確ではなく，亜種の分化は認められないとしている (1976，1994)．ほかにもバフイロムシクイ *P. subaffinis* と本種は同一種で，２亜種としている (Howard and Moore 1991)．しかし，多数の学者はバフイロムシクイを独立種として分けて処理している．我々もバフイロムシクイを独立種として処理し，本種は単型種で，亜種分化は無いとしている．

**生息環境と習性**　主に標高 1000～5000m の高山帯の森林あるいはそれ以上の高山の潅木叢中に生息する．秦嶺山脈では標高 1100m の広葉林で見られ，四川省，貴州省でも標高 1100m 以上の林間，林縁，高山の潅木叢で見られ，よく林縁の潅木叢や渓谷の谷筋で見られる．チベットでは標高 2000m の農耕地や 5000m に近い高山潅木叢にも生息している．しかし，青海省では林縁と草原の疎林地域に多く生息している．これら高山の潅木叢を主な生息環境とする小型鳥類である．常に単独あるいは番い行動をし，非繁殖期には３～５羽あるいは 10 羽ほどの小群で行動する．行動は活発，敏捷で，終日１ヵ所に留まらず，樹枝間を跳び回り採食をする．空中の昆虫をフライキャッチすることもあり，また地上を駈けることもある．絶えず“zhi zhi zhi”と鳴く．

**食性**　主に甲虫類，ゾウムシ，鱗翅目幼虫，鞘翅目幼虫，アリ，ハエ類等の昆虫を食す．

**繁殖**　繁殖期５～８月．通常，営巣は地上から高くない潅木叢の下部に楕円形あるいは円形に近い巣を作る．科学院チベット高原総合科学考察隊の計測によると (1983 *n* 2)．巣の大きさは外形 13～14cn，内径７～7.5cm，高さ７～８ cm，深さ６～７ cm．巣材は枯れ草と少量の細い樹枝で構成され，内側に鳥の羽毛が敷かれている．１巣卵数３～５卵，卵は象牙色，たまに，ま

ばらに赤褐色の斑点が見られる．卵の大きさは15～16.5×11.5～13mm．雌雄が共に抱卵，育雛する．

**渡り**　夏鳥．毎年４月に渡来し，我が国で繁殖し，９～10月に渡去する．

**生息状況と保護**　キバラムシクイは我が国での分布域は広く，個体数も比較的豊富である．

**454．パフイロムシクイ (棕腹柳鶯 *Phylloscopus subaffunis* Ogilvie-Grant)**

英名　Buff-bellied Willow Warbler；Buff-Throated Warbler；Chinese Willow Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長10～12cm．体の上面はオリーブ褐色，眉斑は肌色を帯びた黄色，過眼線は暗緑褐色，風切羽と尾羽は暗褐色で，外縁が黄緑色，体の下面はシュロ色を帯びた黄色．

キバラムシクイの外形は，大きさ，羽色共に本種と非常によく似ており，野外での識別は容易ではない．しかし，キバラムシクイの体下面は黄色で，シュロ色を帯びた黄色ではなく，体の上面はオリーブ緑色で，オリーブ褐色ではない．区別は明確で，野外での識別も可能である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面は前額から上尾筒に至るまでオリーブ褐色あるいはオリーブ緑褐色で，ときにはわずかにシュロ色を帯びることがあり，腰と上尾筒の色はやや浅い．尾はやや円く，尾羽は暗褐色あるいは淡い褐色，外弁の羽縁はオリーブ褐色あるいはオリーブ緑色．翼は暗褐色で翼斑はなく，下雨覆と背はオリーブ褐色，外側の雨覆は暗褐色で，外縁は黄緑色あるいはオリーブ褐色．風切羽も暗褐色，外弁の羽縁は黄緑色あるいはオリーブ褐色．眉斑は黄色あるいは淡いシュロ色で，過眼線は緑褐色あるいは暗褐色，目先から眼を経て耳羽に至る．体の下面はシュロ色を帯びた黄色，頬，喉はやや淡く，両脇はやや暗色，翼の下雨覆は肌色を帯びた黄色．

虹彩は褐色，上嘴は黒褐色，下嘴はやや淡い褐色，下嘴の基部は黄褐色，脚は褐色．

**各部の測定**　体長10～12cm．

**地理的分布と亜種分化**　国内では青海省東部，東南部の斑瑪(パンマア)，南部の扎陵(ザアリン)湖，陝西省の秦嶺山脈南部，四川省北部の平武，汶川，東北部の万源，城口，南江，東部の万県，南部の南川，屏山，雷波，馬辺，峨辺，甘洛，美姑，西南部の会東，西昌，木里，西部の康定，濾定，二郎山，中部の成都，金堂，峨眉，楽山，宝興，天全，南充，貴州省西北部の威寧，赫章，整備の水城，普安，西南部の興義，興仁，中部の貴陽，都匀(ドユン)，北部の綏陽，雲南省西北部の麗江，中甸，西部の騰冲，雲龍，永平，漾濞(ヤンビ)，大理，広西省，湖北省，安徽省の黄山，福建省の挂墩(グアドン)等に分布する(繁殖地)．冬季には雲南省，広東省，福建省等で見られ，ほかに河南省と山東省の濰(ウェイ)県でも見られたが繁殖は明確ではない．国外ではネパール，ビルマ，ベトナム，ラオス，カンボジア，タイの西北部で，わずかに冬季に見られる．

本種の分類に関しては，様々な意見がある．人によっては本種とキバラムシクイ *P. affinnis* がきわめてよく似ており，本種をキバラムシクイの１亜種としている(Howard & Moore 1991)．Williams(1967)はこの両種の間の標本により中間型のあることから，本種をキバラムシクイの同一種とした．Alström & Olsson(1992)は標本をかさねて検査し，彼らはいずれも１種あるいは *P. arcanus* の二つの種内であることを発見し，これによって彼らは本種を独立種とする意見を支持し，本種はわずかに形態上もキバラムシクイと異り，鳴き声もまた異り，繁殖分布域が重なるが，中間型を見ることはない．鄭作新(1987)もまた本種とキバラムシクイは我が国での繁殖分布域が広範囲で重なっており，さらに中間型が出現しないことは，完全に繁殖が隔離されて

いることを説明しており，このことから本種とキバラムシクイは異る種であるとしている．我々もこの意見を支持する．

本種には2つの亜種がある，我が国には1亜種*Phylloscopus subaffinnis subaffinnis*が分布し，冬季にはミャンマー，ラオス，ベトナム，カンボジア，タイなどで越冬する．

我が国で見られない別のネパール亜種 *Phylloscopus subaffinnis arcanus*はネパールに分布する．

**生息環境と習性**　主に標高900～2800mの山地で，針葉樹林と林縁の潅木叢に生息し，低山の丘陵地，山麓の針葉林，広葉林の疎林，潅木叢に続く草原にも生息する．単独，またはつがいで行動し，非繁殖期には小群で行動することもある．鳴き声は繊細で，絶えず重ねて2音節で“qiri，qiri…”とコオロギに似た鳴き声で鳴く．

**食性**　主食は昆虫食．李挂垣(1985)によると四川省における65羽の剖検胃内容では全てが昆虫でオサムシ科，ウリハムシ，カメムシ，アリ，ハエ，その他鱗翅目昆虫の幼虫とある．

**繁殖**　繁殖期5～8月，四川省の標高1500～1600mの若い杉林中で見つけた3巣によると，若い杉の中ほどから下の枝又上に多く，また地面から高くない(0.3mほど)草原の中に営巣されていた．巣は蓋のある杯状あるいは円形で，側面に開口し，枯れ草の葉や茎，細い根などを材料とし，時には蘚苔などを混ぜ，内部に羽毛を敷いている．巣の大きさは外径8～10.5cm，内径3.5～5.3cm，高さ9～13cm，深さ6～7.8cm．1巣卵数は4卵，白色で，大きさは14.8～15.3×11.6～12.0mm（李挂垣等1985）．

**渡り**　夏鳥，地域により留鳥．4月中旬繁殖地へ渡来し，10月下旬に渡去する．

**生息状況と保護**　バフイロムシクイは我が国に広く分布し，個体数も少なくない．

### 455．オリーブムシクイ(灰柳鶯 *Phylloscopus griseolus* Blyth)

英名　Greyish Willow Warbler；Sulphur-bellied Warbler；Olivaseous leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長11～12cm．体の上面は灰褐色で鮮黄色の眉斑と黒褐色の過眼線があり，両翼と尾羽は黒褐色で翼斑はない．体の下面は黄褐色，胸と両脇はやや暗色，腹部は黄色．明らかな特徴は鮮やかな黄色の眉斑と灰褐色の背部は他のムシクイと区別するのに難しくはない．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体上面は灰褐色，灰オリーブ褐色，あるいは黒褐色を帯び，腰部はわずかに黄色を帯びる．両翼と尾羽は褐色あるいは暗褐色，羽縁は比較的淡い，尾羽の外側の1あるいは2枚の先端に細い白色斑あるいは灰白色斑がある．眉斑は鮮黄色で長く明確で，鼻先から後頭部まで伸びており，ことに眼の上の鮮黄色が強く，後頭部では肌色に近くなる．目先と過眼線は褐色，頭側は肌色と黄色の羽毛が混ざっている．体下面は肌色あるいは黄褐色，胸と両脇は比較的に暗色，胸の両側は淡い灰褐色，腹の中ほどと喉はさらに淡い灰褐色で，腹はやや黄色がつよい．下尾筒は黄褐色，腋羽と翼の下雨覆は褐色あるいは灰黄色．換羽後の新鮮な秋羽の体上面は張るに比較して灰色がつよく，体下面はわずかに褐色がかった黄色．初列風切の第2枚目は第9枚目と第10枚目の中間の長さあるいは第9枚目，第10枚目と等しい長さである．

幼鳥と成鳥は似ているが，幼鳥は比較的暗褐色で，胸もまた褐色がつよい．

虹彩は暗褐色，上嘴は黒色あるいは黒褐色，下嘴は黄色あるいは橙黄色，脚は橙色あるいは緑黄色．

**各部位の測定**　体重♂8～10g．体長♂113～133mm，♀100～140mm．嘴峰♂10～11mm，

♀13～14mm．翼長♂52～68mm，♀54～61mm．尾長♂47～54mm，♀43～48mm．跗蹠♂19～21mm，♀19～20mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内分布は新疆省東部，中部と西部天山，カシュガル，タリム盆地から南部崑崙山脈祁連山に至る地域．国外ではモンゴル西部，アルタイ，カザフスタン南部，中央アジア，タジキスタン，アフガン，パキスタン，カシミール，キルギス，インド西北部に分布し，越冬はパキスタン，インドである．

亜種はない．

**生息環境と習性**　主に標高2300～4500mの森林の林縁部や高山の人家に近い疎林，潅木叢地域に多く，好んで岩石の多い斜面や谷あいの潅木叢に生息し，林縁の疎林や荒れた草地にも生息する．秋冬季には低山山麓の平野部に下りてくる．常に単独あるいはつがいで行動し，時には３～５羽の小群で行動する．日中の多くの時間を地上や岩石の上で行動し，敏捷に地上や岩石の間を跳び回る．一般的には岩石の間や潅木叢の下，ときには潅木の上あるいは樹木の上層部で採食し，また地上，岩石の上で留まって動かないこともある．

**食性**　主に鱗翅目，鞘翅目，イナゴ，アリ，ハエ類の昆虫とその幼虫をを食し，クモ類や小型の節足動物も食べる．

**繁殖**　繁殖期は５～７月．通常は潅木の低い枝上にあるいは森の小さな樹の小枝上，地上0.1～1,5mに営巣する．巣は球形，開口部は側面の頂点に近いところにあり，造りは比較的大きく，厚みがあり，隠蔽度は多少の差がある．巣材は枯れ草の茎，葉，樹皮の繊維などで編まれており，内側には鳥類の羽毛と柔らかい植物の繊維で作られている．雌が単独で巣作りをし，通常５～７日で完了する．雄は多くは巣の近くで囀り，希には巣作りに参加する．巣の大きさは外径11.5～13.5cm，内径７cm，高さ14cm，出入り口は円形で，直径4.5cm．１巣卵数は４～５卵で白色，赤褐色の斑点があり，卵の大きさは１７～17.5×12～13mm(Baker 1924)．雌は巣作りが終わって２～６日おいてやっと産卵し，一般的には早暁産卵する．抱卵は14～17日(Roberts 1992)．雛は晩成型，雌雄ともに育雛にあたり，15日ほどで巣立ちする．

**渡り**　夏鳥で，４月中旬渡来し，我が国で繁殖，10月渡去を開始する．

**生息状況と保護**　オリーブムシクイの我が国での主な繁殖域は新疆省と青海省祁連山一帯に生息し個体数は少ない．

### 456．ムジセッカ(褐柳鶯 *Phylloscopus fuscatus* (Blyth)

英名　Dusky Willow Warbler；Dusky warbler；Dusky leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長11～12cm．体の上面オリーブ褐色，眉斑は褐色を帯びた白色，過眼線は暗褐色．体の下面は肌色黄褐色を帯びた白色で両脇と胸はことに顕著．初列風切の第２羽は第９と第10羽の中間あるいはこれらと等しい．

よく似ているオリーブムシクイは体の上面がこれより暗褐色で，遠くから見ると黒色に近く見え，眉斑が緑色，体の下面は緑色を帯びる．

**形態羽色**　体の上面は褐色あるいはオリーブ褐色，両翼内側の下雨覆も背中と同色，その他の雨覆と風切羽は暗褐色で，外弁の羽縁はより淡褐色でわずかにオリーブ色で縁られ，内弁の羽縁は浅い灰褐色．尾羽は暗褐色で上面にわずかに淡褐色が滲み，羽縁の淡いオリーブ褐色が明らかである．眉斑は茶褐色を帯びた白色で額から後頸まで直線に引かれている．過眼線は暗褐色で目先から後頸まで伸びており，頬と耳羽は褐色または浅い赤褐色．腮，喉はわずかに肌色を帯びた白色，胸は淡い赤褐色，腹はわずかに肌色あるいは灰色を帯びた白色，両脇は茶褐色，下尾筒は

淡い茶褐色あるいは薄い褐色，腋羽と下雨覆は肌色．夏羽の古い体の上面はやや灰色を帯びる．

幼鳥と成鳥は似ているが，体の上面がやや暗色，眉斑が淡灰白色，体の下面が黄褐色．

虹彩は暗褐色あるいは黒褐色，上嘴黒褐色，下嘴は橙黄色で先端が暗褐色，脚は淡褐色．

**各部位の測定**　体重♂8～12g，♀7～9 g．体長♂109～134mm，♀112～125mm．嘴峰♂8～10mm，♀8～10mm．翼長♂52～65mm，♀53～62mm．尾長♂41～56mm，♀42～52mm．跗蹠♂21～25mm．♀19～23mm(基亜種)．

**地理的分布と亜種分化**　国内の分布は内蒙古自治区の北部ホロンバイル盟，黒竜江省の大興安嶺北部，東北部の小興安嶺，伊春，南部の牡丹江，ハルピン，吉林省東部の長白山，延辺，南部の通化，渾江，西南部の四平，遼源，西部の白城，遼寧省南部の大連，金県，営口，遼陽，西部の朝陽，錦州，義県，河北省東部，北部，北京，河南省，四川省，甘粛省，寧夏省，青海省，内蒙古自治区の伊克昭盟等に分布(繁殖)．河北省，河南省，山東省，山西省，陝西省，湖北省，湖南省，四川省，貴州省，雲南省，チベット，広西省，広東省，香港，福建省，海南島へ渡り越冬する．台湾でも見ることがある．国外ではロシア沿海部，シベリア東部，西へエニセイ河，北は北緯64°～66°に達し，南はモンゴル，アルタイ，東は太平洋沿岸，オホーツク海のサハリン，朝鮮に分布し，インド，ミャンマー，タイで越冬する．

本種の分布と亜種分化については，二つの異る意見がある．Vaurie (1954) は *P. fuligiventer* と *P. tibetanus* を4亜種に分けた．鄭作新 (1976)，De Schauensece (1984) はこの意見を支持し，この4亜種全てが我が国に分布することを認めた．Howard and Moore (1980) は本種と *fuligiventer* (*tibetanus* を含む) を分け，本種の亜種を2亜種とした．近年形態学，渡りの習性，鳴き声などの研究により，この意見が広く支持されるようになった．(Howard and Moore 1991．Cramp 1992．Alstrom Pers Comnm 1995)．鄭作新もまたこの意見に同意し，我々の同意した視点は．

本種には2亜種あり，基亜種 *Phylloscopus Phylloscopus Phylloscopus* と西南亜種 *Phylloscopus Phylloscopus weigoldi* である．前者は国内の，内蒙古ホロンバイル盟，黒竜江省北部の大興安嶺，東北部の小興安嶺，南部の牡丹江，中部のハルピン，吉林省東部の長白山，延辺，南部の通化，渾江，西南部の遼源，四平，中部の吉林，長春，西部の白城，遼寧省南部の大連，営口，中部の遼陽，西部の錦州，朝陽，義県，河北省東部，北部，寧夏回族自治区の賀蘭山と青海省東北部の門源，祁連山，甘粛省の武威，内蒙古の克昭盟等で繁殖し，雲南省，広西省，湖南省，広東省，香港，福建省と海南島で越冬し，台湾でも時々見られ，渡りの時期には河北省南部，山東省，河南省，山西省，陝西省，湖北省，四川省，チベット南部，貴州省，江西省，江蘇省等でも見られる．国外ではシベリア，エニセイ川から太平洋沿岸のオホーツク海，アルタイ山脈，モンゴル，朝鮮，サハリン，カムチャッカ半島，極東ロシア等に分布し，インド，ミャンマー，タイで越冬する．後者は青海省東部の青海湖，天峻，東南部の瑪泌，河南，四川省北部の石渠，徳格，北部の平武，松潘，東北部の万源，東南部の秀山，西部の康定，巴塘，理塘，中部の成都，宝興，南充，西南部の会東，美姑，雷波，甘洛等で繁殖し，越冬期には雲南省，チベット東部，南部で見られ，インド北部で越冬する．

Vauie(1959) と鄭作新 (1976) は Stresemann(1924) によって四川省の松潘で採集した標本に *Phylloscopus fuscatus robustus* と命名した亜種は同物異名であるとしたが，Howard and Moore(1991) はこの亜種を認め，その理由をこの鳥が我が国北部で繁殖し，我が国の南部とインドシナ半島で越冬していることから，本種を3亜種としている．この亜種の確立については，

さらに研究が待たれるところである．

**生息環境と習性**　山麓の平野から標高4500mの山地森林や林線以上の高山潅木叢地帯まで，とりわけ開けた広葉林，針葉樹との混交林，針葉林の林縁部，渓流沿岸の疎林，潅木叢を好み，密集した大森林を好まない．非繁殖期には耕地，果樹園，住宅地近くの小さな林でも見ることができる．常に単独か，対で行動し，多くは林床，林縁，渓谷近くの潅木叢，草叢などで行動する．好んで樹枝間を飛び回り，“shaba，shaba…”あるいは“da，da，da…”と鳴き声を発する．繁殖期間はよく潅木の頂点で早朝から暮れどきまで止まることなく囀り，“qi，qi，qi，qi…”と繰り返し囀る．ある時は枝先で鳴き，ある時は羽を震わせて枝から枝へ飛び回り，すぐに茂みの中へ入る．

**食性**　主に昆虫食，長白山で捕獲した８羽の剖検胃内容では鞘翅目昆虫が最も多く，５回出現し，胃内容の約50%を占め，次いで多いのが鱗翅目昆虫で，３回出現し，胃内容の約37,5%を占めた．鞘翅目，鱗翅目昆虫の他シャクトリムシ，ハエ，クモ等も食べている．植物性の食物を食べている例は見られない(趙正階等1985)．

**繁殖**　繁殖期は５～７月．通常林の下あるいは林縁や渓流沿いの潅木叢中，地上0.27～0.7mの高さに営巣する．地上に直接営巣した報告もある．巣は球形で，開口部は側面のやや高い所にある．我々が長白山で調査した２巣による巣の大きさは外径12～15cm，内径6 cm，高さ13～14cm，巣口は円形で直径4 cm．１巣卵数は４～６卵，通常５卵，白色で大きさは15～18×12～13mm．

**渡り**　ムジセッカは我が国の一部では夏鳥で，場所により旅鳥であり，冬鳥である．毎年多くは５月初旬繁殖地へ渡りを開始し，秋，９月末から10月の初めに渡去する．長白山で最も遅いものは10月の末頃渡去する．

**生息状況と保護**　ムジセッカは我が国では広い範囲に分布し，個体群数も比較的豊富である．

### 457．マユナガムシクイ(烟柳鶯 *Phylloscopus fuligiventer* Hodgson)

英名 Smoky Warbler；Smoky Willow Warbler；Smoky Leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長約11cm．体の上面は煤けた褐色，野外で見ると黒色に見える．両翼と尾羽は黒褐色，不明瞭な暗緑色の眉斑．体の下面は暗緑色あるいはオリーブ褐色．

ムジセッカは似ているが，体の上面がオリーブ褐色で，眉斑が肌色を帯びた黄色，体の下面は褐色を帯びた白色である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面は煤けた褐色で，黒色に近く，わずかにオリーブ色が滲んでいる．両翼と尾羽は黒褐色，羽縁は淡いオリーブ褐色．初列風切の第２枚目の長さが第９枚目と等しい．眉斑は灰白色あるいは光沢のある緑色で，比較的短くて不明瞭，頭側は肌色黄褐色．体の下面は灰黄色あるいは黄褐色，胸と両脇は褐色．

虹彩は褐色，嘴は黒色，下嘴は蝋色をした褐色，脚は褐色を帯びた緑色．

**各部位の測定**　体長110mm．嘴峰10～14mm．翼長51～61mm．尾長42～50mm．跗蹠21mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内での繁殖はチベット南部の江孜，崗巴，三安曲林，米林，魯霞，羌納(ジアンナ)，徳母貢巴(ドムゴンパ)，甘馬蔵布河谷，加山口，狄里派(ピリパ)，チョモランマ峰の近隣地区，および則拉，朗県，納木布，米拉，比姆比と昌都地区西南部山地などで，国外では，ネパール，シッキム，ブータン，インドのアッサム，バングラデシュ等ヒマラヤ山脈周辺地域に分布する．

本種の分類と亜種分化に関しては，異る意見が続いている．Vauie(1954，1959)は本種をム

ジセッカの１亜種とした．鄭作新(1976)，De Schauensee(1984)はそれぞれ《中國鳥類分布名録》と《The Birds of China》の中にVaurieの意見によって本種をムジセッカ*P. fuscatus*の１亜種として繰り入れた．Hward and Moore(1980，1991)，Walters(1980)らは本種を独立種とした．近年多くの学者，たとえばCramp(1992)が形態，渡りの習性，鳴き声などに基づき，本種とムジセッカが異る種であるとしている．鄭作新(1994)もこの意見を支持し，我々もまたこの意見を支持する．

本種には２亜種があり，全て我が国に分布している．基亜種*Phylloscopus fuligiventer fuligiventer*はチベット南部江孜以南の地域，三安曲林，米林，魯霞，羌納，徳母貢巴，加山口，狄里派，甘馬蔵布河谷，崗巴，チョモランマ峰の近隣地区に分布し，国外ではブータン，ネパール，シッキム等ヒマラヤ山地に分布し，冬季にはインド東北部のアッサムとバングラデシュなどでも見られる．チベット亜種*Phylloscopus fuligiventer tibetanusu*の国内分布はチベット東部昌都地区の則拉，朗県，納木布，米拉，比姆比と四川省西部で，冬季にはインドアッサム北部でも見られる．両亜種の識別はチベット亜種の眉斑が灰白色，体の下面は比較的に暗灰色，黄色が見られない．基亜種は眉斑が不明瞭で，体の下面はより深い黄色である．

**生息環境と習性**　主に標高3000～4500mの高地に生息し，とくに渓谷の岸辺や高山の林縁部にある潅木叢でよく見かける．冬季は山麓の平原や河川，湖沼，耕地周辺の潅木叢やヨシ原の中に生息する．単独あるいは番いで行動し，潅木の下枝を飛び回りながら採食をする．たえず“chuli-chuli…”と単調に鳴く．

**食性**　主に昆虫食．

**繁殖**　本種の繁殖研究資料は甚だ少ない．Baker(1924)の報告によると，かつて1921年８月４日チベットの標高4200mほどの所で見つけた巣の３卵の大きさは，15×12mm，14.6×12.2mm，15×12.1mmであった．

**渡り**　夏鳥，部分的に留鳥．

**生息状況と保護**　マユナガムシクイの分布はチベットの南部と東部地域で個体数は豊富ではない．

### 458．モウコムジセッカ(棕眉柳鶯 *Phylloscopus armandii* Milne-Edwards)

英名 Buff-browed Willow Warbler；Milne-Edwards Warbler；Yellow-straked Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長11～13cm．体の上面はオリーブ褐色，眉斑は褐色を帯びた白色，過眼線は暗褐色，両翼と尾羽は黒褐色．体の下面は白色に近く細い緑黄色の縦紋がある．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ褐色でわずかに灰色を帯び，額は赤褐色を帯びる．腰は緑黄色を帯び，両翼と尾羽は黒褐色あるいは暗褐色で外弁の羽縁は淡い赤褐色あるいはオリーブ褐色，両翼と尾羽の表面は背部と同色．眉斑は褐色を帯びた白色で長く顕著，過眼線は暗褐色で眼先から眼の後方へ伸び耳羽の上縁に達しており，頬と耳羽は茶褐色で頸の側面は黄褐色．体の下面は白色で細い黄色の縦紋があり，両脇はややオリーブ褐色に染まり，両脇と下尾筒は肌色を帯びた黄色．

虹彩は褐色あるいは暗褐色，嘴は黒褐色，下嘴はより淡く，基部は黄褐色で，脚は灰褐色あるいは鉛色を帯びた褐色．

**各部位の測定**　体重♂９～12g，♀９～11g．体長♂118～136mm，♀112～130mm．嘴峰♂７～11mm，♀９～11mm．翼長♂54～65mm，♀56～59mm．尾長♂51～58mm，♀48～

55mm．蹠♂20～25mm，♀20～22mm(基亜種)．

**地理的分布と亜種分化**　国内での繁殖は遼寧省の瀋陽，鞍山，内蒙古自治区の東南部の赤峰，烏拉山，河北省，北京，山西省，陝西省，湖北省，貴州省，四川省北部と西部，甘粛省，青海省，チベットの昌都地域，雲南省西北部．越冬は雲南省南部．モウコムジセッカは我が国特産の鳥類で，主要な分布は我が国で，わずかにミャンマー，ラオス，タイで冬季に見るころができる．

本種には２亜種がある．基亜種 *Phylloscopus armandii armandii*，繁殖は我が国東北南部の瀋陽，鞍山，内蒙古の赤峰，烏拉山，河北省，北京，山西省，陝西省，四川省北部の松潘，平部，茂県，汶川，南充，東北部の万源，西部の康定，道孚，巴塘，理塘，甘粛省西南部と西北部の天堂寺から青海省の東部，南部の玉樹，チベットの昌都北部に至る地域，渡りの時期に山東省の烟台で偶然に見られ，越冬期には雲南省南部，ミャンマーとラオス北部で見られる．西南亜種 *Phylloscopus armandii perplexus*，繁殖は湖北省西部，貴州省北部の赤水，東部の江口，西北部の威寧，東南部の榕江，四川省中部の峨眉，宝興，西南部の会東，木里，米易，美姑，南部の雷波，屏山，チベット東南部の錯那，同普，古琴，昌都地域の南部，雲南省西北部の麗江，西部の大理，南部の勐海，中部の新平で，越冬期には雲南省南部，ミャンマーとタイで見られる．両亜種の区別は，基亜種の体の上面がやや淡いオリーブ褐色，時により淡い灰色帯びた褐色および緑色．体の下面に明らかな黄色の縦紋がある．西南亜種の体の上面はより暗いオリーブ部褐色で，体の下面の黄色縦紋が不明瞭である．

**生息環境と習性**　標高 3200m 以下の中低山帯と山麓平原地帯の森林と林縁部の潅木叢中に生息し，とりわけ針葉樹林とシラカバ林および林縁部河辺の潅木叢でよく見かけ，成長した潅木を取り巻く草原や路傍，農耕地でも見られる．常に単独あるいは番いで行動し，ときにはまばらに群棲し，潅木などの樹枝間を飛び交い採食する．

**食性**　甲虫，鱗翅目昆虫，ハエ，アリなど昆虫食が主で，少量の果実，種子も食べる．

**繁殖**　モウコムジセッカの繁殖状況に関する研究報告は非常に少なく，蔡其侃 (1988) による報告で，７月８日北京郊外標高 1200m の百花山林場で１巣を見つけ，巣立ちしたばかりの４羽の幼鳥を連れた親鳥が樹枝間で採食しており，幼鳥はまだ十分に飛べず，親鳥が給餌を繰り返していた．これにより繁殖期は５～６月頃と推察する．Baker(1924) はかつて標高 2700m の所で１巣を見つけ，巣内に５卵があり，卵は白色で赤い斑点ががある．卵の大きさは 15.5～16.0×12.5～13.0mm．

**渡り**　我が国の北部では夏鳥，南部では留鳥でもあり，場所により冬鳥でもある．毎年多くは４月末から５月に渡来し，９月末から 10 月の初めに渡去する．

**生息状況と保護**　モウコムジセッカは我が国の特産鳥類で，個体数は部分的に豊富である．

### 459．カラフトムシクイ (巨嘴柳莺 *Phylloscopus schwarzi* Radde)

英名　Thick-billed Willow Warbler；Radde's Bush Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長 11～14cm．体の上面はオリーブ褐色，腰は黄色を帯びたオリーブ色，眉斑は肌色白色でながく，過眼線は黒褐色，体の下面は黄白色．嘴は厚く大きい．

ムジセッカ，モウコムジセッカ，バフイロムシクイと本種は非常に似ており，野外識別は困難である．しかし，前３種の体型が比較的小さく，嘴が本種に比較して大きくなく，モウコムジセッカの体の下面の色がさらに深い黄褐色である．

**形態羽色**　両翼腋羽を含む体の上面はオリーブ褐色で，ときにはわずかに灰色を帯び，腰は黄褐色．上尾筒は茶褐色，尾羽は暗褐色で外弁羽縁は茶褐色，両翼の雨覆と風切羽も暗褐色で外弁

羽縁は茶褐色．眉斑は褐色を帯びた白色あるいは肌色黄色で比較的長く，鼻孔から真直ぐに後頸に達し，過眼線は暗褐色あるいは黒褐色で，眼さきから眼を通り耳羽の上端まで延びており，頰と耳羽は赤色を帯びた褐色．腮，喉は白色，胸は黄白色あるいは黄色でときには褐色を帯びることもある．両翼は暗赤褐色，腹は黄色あるいは黄白色，翼の前縁，翼下雨覆，腋羽，下尾筒は黄褐色．

虹彩は暗褐色，上嘴は黒褐色あるいは暗緑褐色，下嘴の基部は黄褐色，脚は黄褐色あるいは肌色．

**各部位の測定**　体重♂10～13g，♀10～16.5g．体長♂121～137mm，♀117～132mm．嘴峰♂8～11mm，♀8～11mm．翼長♂61～68mm，♀56～65mm．尾長♂52～63，♀52～54mm．跗蹠♂20～24mm，♀19～24mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内の繁殖は内蒙古自治区のホロンバイル盟，黒竜江省の大興安嶺北部，小興安嶺の東北部，南部の帽儿山，ハルピン，鏡泊湖，東部の佳木斯，完達山，西南部の泰康，大慶，吉林省東部の長白山，延辺，南部の渾江，通化，中部の吉林，西部の白城，遼寧省東部の桓仁，新濱，撫順，本溪，東南部の丹東等の地域．北京地区でかつて6月3日採取された標本があり，この時が繁殖期であり，あるいはわずかながら北京，河北省東北部の山地で繁殖していると思われる．越冬は広東省，香港等の地で，渡りの期間は遼寧省西部，南部，河北省，河南省，山東省，山西省，甘粛省の武山，湖北省，湖南省，貴州省の江口，雷山，榕江，望謨，四川省の康定，雲南省，広西省，江西省，浙江省，福建省などで見られる．国外での繁殖はロシアのシベリア南部，沿海州，サハリン，朝鮮などで，越冬地はミャンマー，タイ，インドシナ半島等である．

本種は *Herbivocula schwarzi* と言う別種名が使われることがある．

単独種で亜種分化はない．

**生息環境と習性**　標高1400m以下の低山丘陵地と山麓の平原地帯を主な生息場所とし，そのうち700～1100mの広葉林と針葉，広葉混交林の林縁部で行動し，とりわけ，路傍のヤナギ，シラカバ類の二次林や潅木林中に常時見られる．その他，渓流両岸の疎林，潅木叢にも現れ，渡りの時期には林縁の草地，果樹園などの付近にある潅木叢にも出入りする．単独あるいは番いで行動し，臆病で警戒心が強く機敏で，常に林床や潅木叢の草叢の中で行動し，繁殖期に雄が樹木の頂点で囀るほかは姿を現すことが少ない．雄は繁殖期にはよく鳴く，明け方から暮れまで休みなく囀り，なかでも明け方と昼前には最も頻繁に囀る．鳴き声は単調で，声高に速く連続して鳴く．その声は“Jiao，Jiao，Jiao，Jiao…”と聞こえ，雄は垂直の枝先頂点に止まって，嘴を上に向け，喉を突き出し，両翼を震わして囀り，雌は時々付近の潅木中で“zha，zha，zha，zha…”と繰り返し鳴く．人が近づいたりするとすぐに近くの潅木叢や草叢に隠れて出てこない，あるいは密かに姿を消してしまう．

**食性**　主に昆虫食．食欲が旺盛で，長白山での11個体の剖検による胃内容は，鱗翅目，鞘翅目，直翅目，双翅目などの昆虫を胃一杯になるほど食べていた．

**繁殖**　繁殖期は6～8月．繁殖地に着くとすぐに，営巣地を探し，雄は囀りを始める．もし人が近づくと，すぐに潅木叢あるいは草叢へ飛び込むが，まもなく近くの潅木へ飛んできて囀り始める．巣は通常林縁の路傍にあるヤナギ，シラカバなどの二次林の，潅木叢あるいは草叢中に，地上10～80cmで隠蔽性のよい場所に作る．巣造りは雌が受け持ち，雄は巣の近くで囀り，なわばりを確保する．巣は球形あるいは楕円形で，外層は草の茎，枯葉，蘚苔，樹皮の繊維等で粗

く作られ，内層は細い草の茎，細い根，樹皮の繊維，ときには羽毛等で柔らかく緻密に作られている．巣の大きさは外径12～13×9～11cm，開口部は側面に円形に作られ，直径4～5 cm．巣ができるとすぐ産卵を開始し，1巣卵数は4～6卵，通常は5卵．卵は白色あるいは乳白色で褐色あるいは黄褐色の斑点が鈍端部に集まっている．卵の大きさは16.8～19.0×13.0～14.5mm，重量は1.7～2.1g．通常1日1卵を産み，産卵後当日か2日後に抱卵を開始し，雌のみが抱卵にあたる．抱卵期間は13～14日．

**渡り**　カラフトムシクイは我が国では夏鳥で，越冬地は広東省と香港のみで，毎年5月初めに東北の繁殖地へ渡来し，9月末から10月初めに渡去する．最も遅いものでは10月中旬に長白山で見られている．

**生息状況と保護**　カラフトムシクイは我が国の東北地方で通常見られる夏鳥で，個体数は豊富である．1980年5月22～28日長白山のアカマツ広葉混交林で6時間30分の間観察し，平均7.36羽/時の発見率であった(趙正階等1985)．

### 460．アカハネムシクイ（橙斑柳鶯 *Phylloscopus pulcher* Blyth）

英名　Orange-barred Warbler；Orange-barred leaf Warbler；Buff-barred Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長9～12cm．暗緑色の頭頂に不明瞭な淡黄色の頭央線があり，眉斑は黄緑色，過眼線は黒色．背中はオリーブ緑色，腰は明らかな黄色．翼と尾は暗褐色，大雨覆と中雨覆の先端が橙黄色で，これが2本の橙黄色翼斑となっている．尾羽外側3対は白色．体の下面は灰緑黄色．

本種と似ているカラフトムシクイの尾羽の白色はなく，翼斑は黄色である．キゴシムシクイでは喉と胸は灰色で，腹以下は黄色である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．額から後頭部までオリーブ暗緑褐色ときには灰色を帯びている．頭頂に不明瞭な淡黄色の頭央線がある．眉斑は不明瞭な淡黄色で，過眼線は暗褐色，頬と耳羽は帯黄灰褐色．背中と肩は頭頂に比較して淡い色調でオリーブ緑色あるいはオリーブ緑褐色，腰は明らかなオリーブ緑黄色．翼は褐色あるいは暗褐色で，風切羽外弁羽縁が黄緑色，大雨覆と中雨覆の羽の先端は橙黄色あるいは中雨覆の羽の先端が細く黄色をしており，大雨覆の先端は比較的幅広く橙色で，これが2本の明確な翼斑を形成している．尾羽は暗褐色あるいは褐色で外側3対はほとんど白色．腮，喉，胸は灰緑黄色，腹と下尾筒は明るい黄色である．

虹彩は黒褐色，嘴は黒褐色であるが下嘴の基部は暗黄色，脚は褐色あるいは暗褐色．

**各部位の測定**　体重♂5～7g．♀5～7g．体長♂90～114mm，♀91～118mm．嘴峰♂8～11mm，♀8～9mm．翼長♂53～64mm，♀50～62mm．尾長♂38～50mm，♀36～41mm．跗蹠♂17～20mm，♀17～20mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内では陝西省南部秦嶺山脈の太白山，甘粛省西北部の天堂寺，青海省東部の大通山，南部の玉樹，四川省北部の阿坝，松潘，馬尔康，西北部の甘孜，徳格，西部の康定，理塘，炉霍，瀘定，北東部の万源，西南部の凉山，会東，中部の峨眉，石棉，宝興，雲南省西北部の貢山，碧江，麗江，中甸，金沙江，西部の騰冲，徳欽，盈江，潞西，賓川，大理，永徳，西南部の瀾滄，西盟，中部の景東，新平，チベット東部の左貢，芒康，南部の樟木，澤里，徳姆，魯霞山口，拉姆，達卡河谷，昌都地区の西南部などに分布する．国外ではカシミール，ネパール，シッキム，ブータン，印度のアッサム，ヒマラヤ山地，ミヤンマー等に分布し，ミヤンマー，タイ北部では越冬する．

本種には2亜種あり，我が国には基亜種 *Phylloscopus pulcher pulcher* の1亜種のみが分布す

る．

別の１亜種ニシヒマラヤ亜種 *P. p. kangrae* はカシミール等西ヒマラヤ山地に分布する．

**生息環境と習性**　標高1500～4000mの山地森林と林縁部の潅木叢のツツジ類の中でよく見られる．常に単独あるいはつがいで行動し，樹冠部に多い．潅木叢で採食することもよく見られる．行動は活発，敏捷で，枝から枝へと跳び回り，休息しているところを見ることは少ない．

**食性**　昆虫とその幼虫を食す．

**繁殖**　繁殖期は５～７月．営巣は山地の森林中で，巣の多くは樹幹に近い枝の二股部分に作られる．巣は球状で側面に開口部がある．巣材は枯れ草の茎葉と植物の繊維を用い，内部には鳥類の羽毛が敷かれている．地上から巣の位置までは３～５ m．１巣卵数は３～４卵で色は白色に微細な赤い斑点が，鈍端部に多い．卵の大きさは15×11mm．

**渡り**　留鳥で部分的な渡りをする．

**生息状況と保護**　アカバネムシクイは我が国の西南地区に分布し，個体数は多くない．

### 461．キマユムシクイ（黄眉柳鶯 *Phylloscopus inornatus* Blyth）

英名　Yellow-browed Willow Warbler；Lnornate Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長90～11cm．体上面オリーブ緑色，眉斑は淡黄緑色，翼に２本の明瞭な黄白色の翼斑があり，胸，両脇と下尾筒が黄緑色．

フメムシクイと本種は非常によく似ているが，フメムシクイの体上面は本種より褐色を帯びており，特に眉斑が細く，白色に近い．前の翼斑は不明瞭で，後の翼斑は鏑色を帯び，体の下面はやや黄色を帯び，両脇は褐色を帯びている．ほかにこの２者の鳴き声が異なる．ヤナギムシクイの体上面は本種より暗色が強く，翼斑も１本しかないので識別は難しくない．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．肩羽を含む体上面はオリーブ緑色で，頭頂はさらに色濃く，しかも褐色を帯び，中央に黄緑色の不明瞭な頭央線があり，眉斑は幅広く淡黄緑色，過眼線は暗褐色で嘴の基部から眼を通り後頸部に達する．頬は淡い黄緑色から褐色を帯びている．肩羽は黒褐色，外弁羽縁は黄緑色，次列風切の羽端部は白色あるいは黄白色．尾羽は黒褐色で，各羽の外弁の羽縁は細い黄緑色．体下面は白色，胸，両脇，下尾筒は淡い黄緑色，翼の縁は緑黄色あるいは端黄白色，下雨覆は白色．腋羽はやや黄色を帯びた白色．

虹彩は暗褐色，嘴は褐色，下嘴の基部は黄色，脚は褐色あるいは淡い黒褐色．

**各部位の測定**　体重♂６～９ g，♀６～９ g．体長86～107mm，♀86～112mm．嘴峰♂６～９ mm，♀７～９ mm．翼長♂49～62mm，♀49～59mm．尾長♂37～45mm，♀33～48mm．跗蹠♂17～20mm，♀15～20mm(基準亜種)．

**地理的分布と亜種分化**　本種はかつて３亜種に分けられていた，すなわち *P. inornatus inornatus*，*P. i. humei* と *P. i. mandellii* である．しかし近来，*P. i. humei* 亜種を形態的，また鳴き声からも (Svensson 1992．Emsi 1996，Inskipp. et al. 1996) 等学者は独立種とした．これに基づいて本種を基準亜種 *P. i. inornatus* と西北亜種 *P. i. mandellii* の２亜種とし，両亜種とも我が国に分布する．その内の基準亜種 *P. i. inornatus* の国内分布は内蒙古自治区東北部のホロンバイル盟，黒竜江省北部の大興安嶺，東北部の小興安嶺，東部の完達山，南部の牡丹江，鏡泊湖，老爺嶺，張広才嶺，帽儿山，ハルピン，西部のチチハル，吉林省東部の長白山，延辺，南部の通化，渾江，西南部の四平，遼源，中部の吉林，長春，西部の白城から南へ遼寧省，河北省，河南省，山東省，山西省，陝西省，さらに南の福建省，広東省，香港，広西省，雲南省，貴州省，海南省，台湾などでは越冬する．国外ではアジア北部ウラルから東へコリマ河下流，アナジル平原，

オホーツク海から南のウスリー，バイカル湖，朝鮮，モンゴル等に分布し，南は印度，シッキム，ブータン，インドシナ半島，マレー半島等で越冬する．西北亜種 *P. i. mandellii* の主な繁殖分布は青海省東部の同仁，貴南，民和，東北部の門源，祁連，南部の玉樹，囊謙，甘粛省西北部の天堂寺，西部の蘭州，南部の武山と西南部，四川省北部の松潘，南平，馬尔康，西北部の道孚，徳格，西部の康定，理塘，雲南西北部の麗江，金沙江と瀾滄江間の山脈，チベット東南部の察隅，林芝，東北部の江達，類烏斎，昌都地区西南部などで，国外分布はシッキム，ミヤンマーのほかタイ北部で越冬する．

**生息環境と習性**　主要な生息地は山地や平原地帯の森林で，とくに針葉樹林と針葉・広葉混交林で多く見られ，殊に渡りの期間は楊柳林や潅木叢でも群れを作って行動している．繁殖期は単独またはつがいで樹冠部で行動することが多く，枝葉の密生した中で鳴き，その声は細くはっきり“sweet-sweet…”あるいは“zhir-zhir…”と聞こえる．

**食性**　昆虫食．我々が長白山において解剖した10例の胃中には全てが昆虫であり，鞘翅目のハムシ科 Chrysomelidae の昆虫が最も多く，次いで虻科 Tabanidae，アリ，鱗翅目昆虫などが見られた．

**繁殖**　繁殖期は5月末から8月中旬．営巣は枝葉の密な枝 (傅桐生等 1985，趙正階等 1985)．ほかに地上での営巣も報告されている (Dement'ev and Gladkov 1954)．巣は球形で，枯れ草の葉，茎，樹皮の繊維，蘚苔類等を巣材として作られ，内部には獣毛と羽毛が敷かれ，開口部は側面にある．外径は11.5～8.5cm，高さ7×7.5cm，高さ7.5cm，深さ5.5cm，巣口の直径は2.6cm．巣造りが終わるとすぐに産卵をはじめ，毎巣5～6卵．卵は乳白色で赤褐色の斑点が鈍端部に多い．大きさは12.5～16.0×11.5～12.0mm，重さは0.9～1.0g．抱卵は雌のみが行ない，孵化した雛は晩成型，育雛も雌が行ない13日ほどで巣立ちする．

**渡り**　キマユムシクイは我が国北部では夏鳥で，一部は南方で越冬する．通常毎年4月末から5月初め我が国の東北部と西北地区で繁殖し，9月下旬から10月初めに南へ渡る．長白山では少数が10月の末まで滞在している．

**生息状況と保護**　キマユムシクイは我が国では通常見られる鳥類の一つであり，個体数も少なくない．

### 462．フメムシクイ (中亜柳鶯，休氏黄眉柳鶯 *Phylloscopus humei* Brooks )

英名　Hume's Warbler. Hume's Yellow-browed Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長約11cm．体の上面はオリーブ緑色，頭頂は比較的褐色を帯び，眉斑は淡黄白色．両翼と尾は暗褐色，羽縁は淡緑黄色，大雨覆先端は橙黄色で明らかな翼斑を形成している．中雨覆の先端は狭い橙黄色あるいはこれを欠失し，これが不明瞭な翼斑を形成するか欠失している．体下面はわずかに黄色を帯びた白色．キマユムシクイは本種に似ているが，眉斑と2本の翼斑がより黄色で幅広く明確であり，体下面が白色に近く，二者の鳴き声も異なる．ヒマラヤムシクイの尾羽外側の1対内弁の羽縁が白色で，頭央線が明確な黄色である．これらは野外での識別は難しくない．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色で頭頂は比較的暗褐色を帯び，灰緑色の不明瞭な頭央線があり，眉斑は淡黄色あるいは淡黄白色で鼻孔から後頭部まで達しているが，眼の前面はやや細く不明瞭である．過眼線は暗褐色，頭側線は褐色の混じった黄色．両翼は暗褐色で羽縁はオリーブ緑色，大雨覆と中雨覆の先端は黄白色あるいは白色でこれにより翼に2

本の翼斑を形成しており，その前の１本は細く不明瞭である．尾羽は暗褐色で外弁の羽縁はオリーブ緑色．体下面は黄白色，ときには赤色を帯び，胸は比較的暗色で，腋と下雨覆は黄色．

虹彩は暗褐色，上嘴淡い肌色で先端は暗色．脚は黒褐色あるいは鉛色を帯びた褐色．

**各部位の測定**　体重♂５～８g，♀５～７g．体長♂93～100mm，♀90～111mm．嘴峰♂７～９mm，♀８mm．翼長♂56～59mm，♀51～55mm．尾長♂40～51mm，♀37～42mm．跗蹠♂18～19mm，♀17mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内では新疆省北部の准噶尓(ファイガル)盆地，アルタイ山脈，西部の喀什，天山，中部のトルファン，チベット西南部の普蘭等に分布し，国外ではモンゴル西部，ロシアのサヤン山脈，外バイカル，ミヌシンスク，アルタイ山脈，天山山脈，タジキスタン，崑崙山脈，パミール，アフガン東北部，パキスタン北部，カシミール等に分布し，アフガン，パキスタン，インドでは越冬している．

かねてから本種はキマユムシクイの一亜種とされており，多くの学者がこれを支持してきた(Svensson(Vaurie 1959．Walters 1980．Howard and Moore 1980，1991．De Schauensee 1984．鄭作新 1976，1994)．しかしながら，Svensson(1992)は形態と鳴き声の点でキマユムシクイと異なり，本種を独立種とした．また本種とキマユムシクイの繁殖地域が西シベリア南部で重なっており，Ernst (1996)はアルタイ東部で両種が同じ地域で繁殖しているのを多く見つけておりながら，交雑型の出現を見ることができなかったことにより本種が独立種であることを支持し，今日多くの人がこれを支持するようになった(Jonsson 1992．Inskipp et al 1996．Viney et al 1996)．我が国でも新疆省のアルタイ地域で両種が同地域で混在繁殖しているのを観察し(袁国映等 1991)，中間型を見ることがなく，明らかに生殖的に隔離された異なる種であるとした．

単独種，亜種分化がない．

**生息環境と習性**　標高 1000～3500m の山地で針葉樹林，亜高山松，高山の樺矮生林，高山の潅木草地，とくにツツジなどの潅木叢，渓流付近でよく見られ，冬季には，低山の林縁部で河川周辺の広葉林，果樹園，草地の疎林，潅木林で見られる．常に単独で活発に行動し，枝から枝へ１日中とどまることを知らない．頻繁に地上へも降りて採食する．

**食性**　昆虫食．

**繁殖**　繁殖期は６～８月．通常潅木叢の地上から高くないツツジ類などの枝葉の密生したところに営巣し，発見しにくい．巣は楕円形，側面に開口部がある．巣の外層は枯れ草などで構成される．巣の外径は 10×11cm，高さは 15.5cm，巣口の直径は 3.5cm，１巣３～６卵，通常４～５卵，卵は白色で赤褐色の斑点がある．卵の大きさは 13.0～15.5×10.4～12.0mm(Baker)．

**渡り**　本種は我が国では夏鳥．毎年４月末から５月初めに新疆省，チベット等の地で繁殖し，９月の末から 10 月の初めに我が国を去る．

**生息状況と保護**　本種は新疆省，チベットなどのわずかな地域で見られ，その局部的な地域では珍しくない．

## 463．カラフトムシクイ (黄腰柳鶯 *Phylloscopus proregulus* Pallas )

英名　Yellow-rumped Willow Warbler．Pallas's Leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長８～11cm．体の上面はオリーブ緑色，頭頂に淡黄緑色の頭央線，眉斑は黄緑色．腰は黄色，両翼と尾羽は黒褐色で外弁の羽縁が黄緑色，翼に２本の黄白色の

翼斑がある．体の下面は白色．

アカバネムシクイと本種はよく似ているが，アカバネムシクイの体の上面は比較して褐色が強く，翼斑が橙黄色，腰はオリーブ緑黄色，尾羽外側３対が白色，体の下面は灰緑黄色である．シセンムシクイも似ているが頭央線がオリーブ灰色．腰が黄白色，翼斑は灰白色である．

野外において混同しやすいのは檸檬腰柳鶯(次項参照)であり，この種と本種の外形と羽色はきわめて似ているが，しかし，両者の鳴き声が異なっている．その他，檸檬腰柳鶯の体の上面はオリーブ褐色，頭央線は不明瞭な淡黄色，眉斑はより淡く浅い黄色．体の下面は濁った灰黄色．初列風切の第２羽の長さが第９羽と第10羽の中間にあたるか，あるいはそのどちらかと等しい．カラフトムシクイにおいては第２羽の長さは第７羽あるいは第８羽に等しい．

**形態羽色**　雌雄の羽色は変わらない．体の上面はオリーブ緑色，頭頂の色はより暗色が深く，前額から後頸へ淡黄緑色の頭央線がある．眉斑は黄色で目先の色がより深く，眼の後は淡い．過眼線は暗緑色．頭側線は暗緑色と黄緑色が混ざり合っている．翼の雨覆は褐色あるいは暗褐色で外弁の羽縁は緑黄色，中雨覆と大雨覆羽端が淡緑黄色あるいは黄色，これが２本の翼斑を形成している．風切羽は褐色で外弁羽縁は黄緑色，三列風切羽の羽縁と先端は黄白色あるいは黄色．腰は幅広く黄色．尾羽は暗褐色あるいは黒褐色で外弁の羽縁は黄緑色．頬は淡黄緑色，その他の体の下面は白色，両脇はわずかに緑黄色，翼の下雨覆と腋羽は黄色を帯びた白色．

虹彩は暗褐色，嘴は黒褐色，下嘴の基部は暗黄色，脚は淡褐色．

**各部位の測定**　体重♂５～7.5g，♀５～７g．体長♂88～106mm，♀80～103mm．嘴峰♂6.5～9.0mm，♀6.0～8.5mm．翼長♂48～57mm，♀45～55mm．尾長♂37～49mm，♀35～45mm．跗蹠♂15～19mm，♀15～18mm．

**地理的分布と亜種分化**　本種の亜種分化に関しては現在異なる意見がある．Dement'ev and Gladkov (1954) は本種を４亜種に分けており，すなわち，基準亜種 *P. p. proregulus*，甘粛亜種 *P. p. kansunensis*，チベット亜種 *P. p. chloronotus*，西ヒマラヤ亜種 *P. p. simlaensis* とした．Vaurie (1959)，鄭作新(1976)は甘粛亜種とチベット亜種は同物異名として３亜種に分けている．その内我が国には２亜種が分布し，基準亜種とチベット亜種としている．De Schauensee (1984) は《中国鳥類》のなかで逆に，中国には基準亜種，甘粛亜種，チベット亜種の３亜種が分布すると認めている．Alstrom & Olsson (1990)，Inskipp et al (1996) はチベット亜種 *P. p. chloronotus* は鳴き声と形態の相違点を基に独立種であるとし，近年多数の学者から認められている．我々もこの意見を支持している．このように我が国ではわずかに基準亜種のみが分布していることになり，黒竜江省北部の大興安嶺，東北部の小興安嶺，東部の佳木斯，完達山，南部の牡丹江，老爺嶺，張広才嶺，吉林省東部の長白山，延辺，南部の渾江，通化，西南部の四平，遼源，中部の吉林，長春，遼寧省東部の西豊，丹東，南部の大連，庄河，西部の義県，朝陽，河北東北部の山間地，北京，内蒙古自治区，甘粛省西北部の天堂寺，祁連山東側，青海省の西寧，陝西省西南部の太白山から四川省の西部で繁殖している．冬は長江以南の各省で西は四川省，貴州省，雲南省，南は広東省，広西省，福建省，香港，海南省で越冬する．国外での分布はロシアシベリア中部と南部，西はアルタイ，中央アジア，東はオホーツク海，沿海州，サハリン，朝鮮で，インドシナ半島で越冬する．

**生息環境と習性**　繁殖期間は主に針葉樹林と針葉・広葉混交林に生息し，山麓の平野部から高山の林縁地域まで幅広く，広葉樹林にも生息する．渡りの時期には二次林の林縁部，道路近辺のヤナギ疎林などでも見られ，繁殖地へ着いたばかりの時期は，山麓の丘陵地域や開けた林縁部に

おいて小群で行動し，その後次第に標高の高い森林部で行動するようになり，明らかな垂直移動をする．繁殖期に入ると，単独か，つがい行動をするようになる．行動は活発，敏捷で，樹冠部を跳び回る．とくに樹高の高い針葉樹の頂点で歯切れよく囀り，数十メートル先まで聞こえ，“tivi-tivi-tivi-tivi”と連続して絶え間なく鳴く．カラフトムシクイは体が小さく，枝葉が密で高いところにいることが多く，発見するのが難しいが林の中で，その声だけはよく聞こえる．

**食性**　カラフトムシクイは主に昆虫とその幼虫，卵を食している．趙正階等 (1985) によると長白山における14例の胃内容はほとんどが昆虫であり，その内容は鞘翅目，鱗翅目昆虫の他クモ類と小型の無脊椎動物であった．

**繁殖**　繁殖期は6～8月．繁殖地に到着したばかりの時期には小群で行動し，互いに追い掛け合いをしているが，やがてつがいを形成し，囀りが始まる．雌は巣作りを開始する．巣は通常カラマツやトウヒ類の枝上で，地上から2.2～6.0mのところに作られる．巣は球状あるいは楕円状で，側面に開口部がある．巣は樹皮の繊維で枝に吊るように固定され．巣材は外層が蘚苔類と樹皮の繊維が使用され，中層が枯れ草の葉や茎が用いられ，内層は蘚苔類で構成され，獣毛や羽毛が敷かれている．巣は樹木に付いているコケとよく似て，偽装されていて発見しにくい．巣の大きさは外形9.2×8.0cm，内径2.5×2.0cm，高さ8.5cm，深さ7.5cm．巣作りは雌雄共同で行われるが，主に雌が担当し，完成までに約1週間を要す．巣作りが終わるとすぐに産卵し，通常1巣5～6卵を産み，卵は白色で紫褐色の斑点が鈍端部に多く見られる．卵の大きさは12.0～12.5×15.0～16.0mm．

**渡り**　4月中下旬頃北方の繁殖地へ渡り，9月末から10月にかけて群を成して越冬地へ渡る．

**生息状況と保護**　カラフトムシクイの我が国における分布は広く，個体数も多い，我が国の東北地方の森林地帯では通常見られる夏鳥である．1963年5月22～30日の間，長白山のアカマツ・広葉混交林において8時間20分の観察，カウントによると1時間平均6.72羽で，1980年5月20～28日の間，前回と同一場所において6時間30分の観察，カウントにより1時間平均6.38羽を数えた (趙正階 1985)．1963年に比べると数はやや下降しているが，個体数は相変わらず豊富である．とくに針葉樹林帯では4.44羽/haに達していた (傅桐生 1985)．長白山における針広混交林では優勢種の一つである．

### 464．レモンコシムシクイ (柠檬腰柳鶯 *Phylloscopus chloronotus* G. R. Gray)

英名　Lemon-rumped Warbler．Pale-rumped Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長9～10cm．体の上面はオリーブ褐色，頭頂は暗色を帯び非常に不明瞭な黄色の頭央線と眉斑がある．腰は淡黄色，両翼と尾羽は暗褐色で外弁の羽縁は黄緑色．体の下面はくすんだ黄色．

カラフトムシクイと似ているが，カラフトムシクイは体の上面がオリーブ緑色，頭央線がきわめて明瞭な緑黄色，腰が鮮明な黄色，体の下面は白色．両者は鳴き声も異なる．その他初列風切第2羽の長さが第7羽と第8羽の間に相当し，若しくは第7羽，第8羽と等しい．レモンコシムシクイの第2羽の長さは第9羽と第10羽の間に相当し，若しくは第9羽あるいは第10羽に等しい．その他似ている種としては，アカバネムシクイがあるが，翼斑が橙黄色であることと，腰のオリーブ黄色，尾羽の外側3対の大部分が白色，体の下面が灰緑黄色，眉斑と頭央線が黄白色，翼の大雨覆の翼斑のが明瞭，腰の黄色がより広く，上尾筒にまでおよぶ，体の下面，頬，喉，胸の前部が灰白色，腹部は黄色である．シセンムシクイは頭央線がオリーブ灰色，眉斑の前半分が

肌色を帯びた黄色で，後半が白色，翼斑は灰白色である．

**形態羽色**　体の上面はオリーブ褐色，とくにはわずかに灰緑色を帯びる．頭頂はより黒褐色で，頭央線は黄色あるいは淡黄色，不明瞭．眉斑は黄色あるいは灰黄色，過眼線は褐色，その他の頭側は暗黄白色と暗褐色が混じり，耳羽の後は淡い斑点がある．腰は淡黄色あるいはレモン黄色で幅広い腰帯となっている．尾羽は暗褐色あるいはオリーブ褐色で外弁の羽縁は黄緑色あるいはオリーブ黄色．両翼は褐色あるいは暗褐色で外弁はオリーブ黄色あるいは黄緑色．中雨覆と大雨覆の先端が淡黄色あるいは緑黄色で，これが２本の翼斑を形成しており，前の１本は通常あまり明瞭ではない．風切羽の翼式は9>2>10である．体下面は浅い灰黄色，腹は黄白色，両脇はオリーブ緑色を帯び，下尾筒は淡黄色である．

虹彩は褐色あるいは暗褐色，嘴は黒褐色，下嘴は角褐色で，基部は黄色あるいはシュロ色である．

**各部位の測定**　体重♂３～６g，♀５～７g．体長♂85～95mm，♀88～92mm．嘴峰♂６～８mm，♀８mm．翼長♂49～54mm，♀49～54mm．尾長♂36～42mm，♀39～41mm．跗蹠♂16～19mm，♀18mm．

**地理的分布と亜種分化**　本種は以前にカラフトムシクイ *P. proregulus* の１亜種とされていた．Alstrom & Ollson (1990) は異なる種の鳴き声を録音した声を聞かせてその反応がないことにより，鳴き声と形態上の特徴に基づいて，独立種であるとした．他の視点からも，近来逐次，一部の学者から支持を得ている (Inskipp et al. 1996)．

本種は２亜種あり，我が国においては１亜種，すなわち基準亜種の *Phylloscotus chloronotus chloronotus* が見られ，四川省北部の平武王朗，松潘，紅原，馬尓康，中部の峨眉山，西部の徳格，巴塘，道孚，宝康，西南部の会東，木里，甘洛，美姑，布拖，雲南西北部の貢山，麗江，西部の騰冲，保山，南部の緑春，屏辺，蒙自，中部の新平，景東，昆明，チベットの波密，察隅，比姆，比山口，洛山口，莫洛，徳仁，加姆達曲，甘馬蔵布河谷，昌都地区，チベット南部に分布する．国外ではネパール，シッキム，ヒマラヤ山地域に分布する．

ヒマラヤ亜種 *P. c. simlaensis* はヒマラヤ西北部，カシミール，パキスタン，アフガニスタンに分布し，我が国では見られない．本種をカラフトムシクイとすることもある．

**生息環境と習性**　繁殖期は主に標高2000～3900mの高山針葉樹林と針葉広葉混交林痛に生息し，秋冬季節には山麓地帯で多く活動する．常に単独あるいはつがいで行動し，ときには小群を作り，また他のムシクイ類やカラ類と混群で行動することもある．多くは高木で行動し，潅木叢あるいは地上へ降りることはきわめて少ない．活発，敏捷に行動し，頻繁に樹冠部を飛び交い，枝先でぶら下がるなどして採食する．

**食性**　昆虫とその幼虫を食す．

**繁殖**　繁殖期は６～８月．営巣は標高2000m以上の産地で，針葉樹林あるいは針葉広葉混交林中で行われる．銭燕文(1974)の報告によると，６月中旬にチョモランマのカマ河谷で地上から２ｍほどの松の木の枝に営巣している１巣を発見．巣は細枝，蘚苔，羊毛，牛毛などを材料に構成され，巣内に２卵があり，産卵を始めたばかりのもので，卵は肌色，２g，12×８mmであった．Alstrom (1992) らは四川省峨眉山と王朗自然保護区で得た３個の巣は全て蘚苔で作られ，地上２～４ｍの樹上に営巣されていた．また，地上15mの松の枝に作られた巣は，外側に松の樹皮を折り込み，カモフラージュしたものも報告がある．一般的に発見することが難しい．巣は球状で，緻密に作られ，主に苔と地衣類で構成され，柔らかい樺の樹皮などを混ぜることが

あり，内層に羽毛を敷き，巣の側面に開口部がある．１巣３～４卵，白色で赤褐色の斑点が，特に鈍端部に密集し，よく鈍端部を取り囲む斑点の集合圏を形成する．巣造り，抱卵，育雛等は雌雄共同で行なわれる．

**渡り**　留鳥．

**個体群の状況と保護**　個体数の豊富な種である．

**465．シセンムシクイ (中華柳鶯，四川柳鶯 *Phylloscopus sichuanensis* Alstrom et olsson)**

英名　Ghinese Leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長約10cm．体の上面は灰色を帯びたオリーブ色，腰は黄白色，腰の部分が明らかに淡色を示す．頭頂は背中に比べて暗色を帯びる，頭央線は淡いオリーブ灰色，眉線は長く明確で，鼻から真っ直ぐに耳羽の後に至っている．眼の前部は淡い肌色をした黄色，後部は白色でわずかに黄色を帯びる．翼に２本の淡黄白色翼斑がある．体下部は白色でわずかに黄色を帯び，とりわけ喉，胸，両脇，下尾筒は明確に黄色を帯びる．

レモンコシムシクイ，カラフトムシクイと本種は非常によく似ている．これらはすべて腰部が淡黄色で，淡い翼斑があり，頭頂線と眉斑があるが，カラフトムシクイの上体はオリーブ緑色で，腰，眉斑，頭頂線はより黄色を帯び，２本の翼斑が明確である．レモンコシムシクイの上体はオリーブ褐色で，頭頂は暗色で，頭頂線は褐色を帯び不明確，前の翼斑がわずかに鮮明，シセンムシクイの上体は灰色を帯びたオリーブ色，眉斑の前半は肌色をした黄色，後半は白色，レモンコシムシクイの頭頂の両側は淡く，頭頂線は不明瞭，特に前方が不明瞭で，ときには頭頂線が見られないことがあり，過眼線も淡く，後方が湾曲し，耳羽の後方に淡色の斑点がなく，頚側の色が淡い．この外，野外で見るとシセンムシクイの方がより大きく，体長も長く，嘴も長く見え，頭部はレモンコシムシクイの方が丸く見える．さらに異なるのは鳴き声で，繁殖場所も異なり，レモンコシムシクイは樹上で，シセンムシクイは地上の草叢の中に営巣する．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．頭頂は暗いオリーブ褐色，中央に前額から後頭部へ淡いオリーブ灰色の頭頂線があるが，前半が不明瞭な場合がある．頭頂線の両側は深いオリーブ灰褐色で，幅広い頭側線を形成している．眉斑は明らかで，鼻先から眼の上を通って耳羽の後方に達しており，その眼から前半は淡い肌色黄色で，後半は白色を帯びた黄色である．暗色の過眼線は目先から耳羽に達し，色は頭側線に似ている．耳羽は淡い肌色黄色，眼の下と眼周は淡い肌色黄白色．頚は灰色を帯びたオリーブ色で，両側はより淡い灰色．肩，背，上尾筒は灰色を帯びたオリーブ色，腰は黄白色，小雨覆灰色を帯びたオリーブ色にやや緑色が強い，中雨覆は暗褐色で外側４枚の先端部がオリーブ灰色，これにより短く狭い翼斑を形成し，大雨覆は暗褐色で羽縁がオリーブ灰色，外弁の先端が淡黄白色で，これが明らかな淡黄白色の翼斑となっている．小翼羽と初列雨覆は淡い緑褐色で，羽縁はオリーブ灰色，初列風切は暗褐色，外側２枚の風切羽外弁は淡緑褐色，その他の初列風切の外弁の羽縁はオリーブ灰色，次列風切は暗褐色で，外弁の羽縁が灰色を帯びたオリーブ緑色，三列風切は暗褐色で，外弁の羽縁がオリーブ灰色，短い三列風切羽の外弁先端は白色，風切羽全体の内弁羽縁は淡白色．尾羽は暗褐色で，外弁羽縁はオリーブ灰色．体の下面は淡黄色を帯びた白色で，とりわけ喉，胸，両脇と下尾筒は明らかに淡黄白色，両脇と胸は不明瞭なオリーブ灰色を帯びている．喉と胸の間に淡いオリーブ灰色の狭い横帯がある．下雨覆は黄白色，脇羽はやや黄色が強い黄白色である．

虹彩は暗褐色，下嘴の基部は黄褐色，跗蹠は暗灰褐色あるいは灰褐色，ときには肉色を帯びた

ものもある．

**各部位の測定**　体重 3.5g．体長 102mm．嘴峰♂1.3mm，♀11.0～11.4mm．翼長♂57mm，♀50.5～52.5mm．尾長♂41mm，♀37mm．跗蹠♂16.2mm，♀15.6～15.7mm．

**地理的分布と亜種分化**　本種は Alström(1992) が我が国の鳥類調査と標本により発表した新種である．現在わずかに四川省北部の平武・王朗，唐家河，南坪・九寨溝，中部の峨眉山，山西省の太原西南部と北京の香山，河北省の東陵等の地域で知られている．

単独種．亜種の分化はない．

**生息環境と習性**　主に標高 2600m 以下の山地森林中に生息し，とりわけ針葉樹が優占した広葉樹との混交林を好む．繁殖期には雄がマツの高木先端で囀り，鳴き声は軽快で変化に富み，“tsiridi-tsiridi-tsiridi-tsiridi” あるいは “tueet-tueet-tueet, tueet-tueet, tueet-tueet-tueet-tueet…” と 1 分ほど朗々と鳴く (Alström et al 1992).

**食性**　資料がない，他のムシクイと同様で，主に昆虫食と思われる．

**繁殖**　繁殖期 5～7 月．Alström et al (1992) によると四川省の峨眉山と王朗で発見した 2 巣はそれぞれ，林床の草叢の地上にあった．そのうちの 6 月 11 日に発見した 1 巣は雑草とワラビ類の茂った，幼生二次林の斜面地上で，発見時すでに産卵しており，6 月 24 日 4 羽の雛が孵化していた．他の 1 巣は蔓性の雑草や苔，蕨類の生えた急な斜面に営巣しており，巣には 4 卵が見られた．巣は球形で側面に開口．巣材は主に草の葉と茎で構成され，内側には細く柔らかい草が用いられ，卵は白色で小さな黒褐色の斑点が鈍端部に集まっており，卵の大きさは 13.5×10.6mm である．雛は晩成，雌雄共に育雛に当たる．

**渡り**　資料がない．

**個体群の状況と保護**　シセンムシクイは我が国特産の鳥類で，現在わずかに四川省，山西省，河北省等に分布しているに過ぎず，個体数も少ない．

### 466．キゴシムシクイ (灰喉柳鶯 *Phylloscopus maculipennis* Blyth)

英名　Grey-throated Willow Warbler；Ashy-throated Warbler；Grey-faced leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長 8～10cm．頭頂から後頸まで暗褐色，眉斑と頭央線は淡い肌色をした黄白色，頭央線は不明瞭である．背はオリーブ緑色，腰と上尾筒は鮮やかな黄色，両翼と尾は暗褐色，羽縁は黄緑色，翼には 2 本の橙黄白色の翼斑があり，尾翼外側 3 対は白色．頬，喉，胸は灰白色，その他体の下面は鮮やかな黄色．

カラフトムシクイと似ているが，カラフトムシクイの体の下面が白色であることから識別は困難ではない．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．頭頂から後頸までオリーブ暗褐色あるいは暗褐色で，頭頂の中央に不明確な淡い黄白色の縦斑がある．淡い肌色がかった黄白色の眉斑ははっきりと長く，額から耳羽の後頭まで達し，過眼線は褐色，頬，耳羽は肌色がかった黄白色あるいは褐色がかった黄白色，その他頭部，後頭部，後頸部，頸側部はオリーブ褐色．背，肩，翼の小雨覆はオリーブ緑色あるいは黄緑色，腰と上尾筒は黄色，大雨覆は暗褐色で幅広の鮮やかな黄色あるいは黄白色の帯があり，鮮明な翼斑をなししている．中雨覆に暗褐色で黄色あるいは黄白色の翼斑があるが，大雨覆の翼斑に比べて細く，はっきりしていない．風切羽は褐色あるいは暗褐色，最も内側の風切羽の外弁先端の褐色を除いてその他は白色．頬，喉，前胸は灰色あるいは灰白色，後胸，腹部，下尾筒は鮮明な黄色．

虹彩は暗褐色あるいは褐色，嘴は黒褐色あるいは黒色，脚は肌色あるいは黄褐色．

**各部位の測定**　体重♂4～6 g，♀3～5 g．体長♂82～95mm，♀81～101mm．嘴峰♂7～8 mm，♀7～8 mm．翼長♂48～53mm，♀47～51mm．尾長♂35～41mm，♀34～38mm．跗蹠♂16～19mm，♀17～19mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内の分布は四川省中部の成都，楽山，峨眉山，西部の康定，宝興，西南部の会東，西昌，甘洛，峨辺，雲南省東北部の永善，西北部の貢山，麗江，西部の瀘水，騰冲，盈江，永平，永徳，賓川，雲龍，景東，龍川江と怒江の間，チベット南部の樟木，易貢，嘎宗と昌都地区の東南部，冬季に雲南省東南部の蒙自と隣接する広西省地域で越冬する．国外分布としては，ネパール，カシミール，シッキム，ブータン，バングラデシュ，インドのアッサム東ヒマラヤ山地地域およびビルマとタイの西北部に分布．

Yaurie (1959) は本種を２亜種に分け，基亜種 *Phylloscopus maculipennis maculipennis* と西ヒマラヤ亜種 *Phylloscopus maculipennis virens* とした．前者の分布はネパール以東の東ヒマラヤ地域と我が国で，後者は西ヒマラヤ地域のカシミールとしている．Ali (1973) はすでに述べた２亜種の他，中部亜種 *P. m. centralis* を追加して本種を３亜種とした (Vaurie はこれを基亜種の同物異名だとしている)．基亜種は体色が最も暗色で，ネパール東部から我が国に分布し，西ヒマラヤ亜種は体色が淡く，西ヒマラヤからカシミール一帯に分布する．中部亜種の体色は上述の２亜種の中間で，ネパールの西部，中部に分布．Howard and Moore (1980) はさらに中国西部亜種 *P. m. debilis* を加えた．この亜種は Thayer ei Bangs (1912) が我が国の四川省楽山において採集した標本について述べている．Vaurie (1959)，鄭作新 (1976) 等は共にこれらを基亜種の同物異名でるとしている．しかし，Howard and Moore (1991) はかえって Vaurie の意見を支持し，基亜種と西ヒマラヤ亜種の２亜種としている．鄭作新 (1994) もこの意見を支持し，我が国に分布している基亜種は我が国以外にネパール，シッキム，ブータン等東ヒマラヤ地域およびビルマ北部とインドシナ半島北部に分布する．西ヒマラヤ亜種はカシミール等の西ヒマラヤ地域に分布する．

**生息環境と習性**　標高2000～3000m の森林，竹林中に生息し，冬季は標高1000m 内外の低山帯の広葉樹林で採食する．常に単独あるいは番いで行動する．活発に１日中樹間を跳び回り採食する．通常は“zi，zi”と声を発し，繁殖期には“wei-ti，wei-ti”あるいは“wei-jiu，wei-jiu”と鳴く．

**食性**　おもに昆虫とその幼虫を食す．

**渡り**　留鳥，部分的に短距離の漂行をする．

**生息状況と保護**　個体数は決して多くはない．

### 467．メボソムシクイ (極北柳鶯 *Phylloscopus borealis* Blasius)

英名　Arctic Willow Warbler；Arctio leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長11～13cm．体の上面はオリーブ緑色，眉斑は黄白色で長く顕著，過眼線は暗緑褐色，両翼と尾は暗褐色，翼にはわずかに１条の黄白色の帯がある．体の下面は白色でわずかにくすんだ緑黄色．

本種はヤナギムシクイとハシブトムシクイに非常によく似ているが，本種の明らかに大きく厚い嘴を除く他．野外で識別することは容易でなく，鳴き声あるいは初列風切羽の長さの差に頼るしかない．メボソムシクイの初列風切第１羽の長さが，初列雨覆より稍長いか，同じであり，初列風切第２羽の長さが，第６羽より短いかあるいは同じ長さで，第６羽の切込みがない．しかし，ヤナギムシクイは初列風切第１羽の長さが初列雨覆より明らかに長く，初列風切第２羽の長さが

第９羽より短く，第10羽より長い．ハシブトムシクイの初列風切第１羽の長さは明らかに初列雨覆より長く，初列風切第２羽の長さは第７羽より短いか同等で，第８羽より長い．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色で，腰と上尾筒はこれより淡い緑色を帯びている．眉斑は黄白色，長くはっきりしており，過眼線は暗褐色で眼先から後頭部まで幅広く長い，頬と耳羽は淡黄色で濁ったオリーブ緑色．尾羽は暗褐色で，外弁の羽縁はオリーブ緑色あるいは暗緑色，内弁の羽縁はは狭い灰白色羽縁，とりわけ外側１対ははっきりしている．両翼の雨覆と風切羽は黒褐色，風切羽外弁の羽縁は黄緑色あるいはオリーブ灰緑色，内弁の羽縁は灰白色，大雨覆の外弁先端はわずかに黄白色，これが１本の細い翼斑を形成しているが，時によっては明確でないこともある．体の下面は淡い黄色，両脇は灰緑色，翼下面の下雨覆と腋羽はくすんだ淡黄色を帯びた白色である．

虹彩は暗褐色，上嘴は暗褐色，下嘴は黄褐色，脚は肌色．

**各部位の測定**　体重♂７～12g，♀７～10g．体長♂110～128mm，♀110～128mm．嘴峰♂９～12mm，♀９～11mm．翼長♂59～70mm，♀58～68mm．尾長♂45～56mm，♀42～54mm．跗蹠♂18～21mm，♀17～20mm(基亜種)．

**地理的分布と亜種分化**　メボソムシクイは我が国では黒竜江省およびウスリー河流域で繁殖している．越冬地の福建省および台湾を除く他の地域では旅鳥である．渡りの時期には広く，黒竜江省，吉林省，遼寧省，内蒙古自治区東部，河北省，北京市，山東省，山西省，河南省，江蘇省，浙江省，寧夏自治区，甘粛省，青海省，四川省，貴州省，福建省，広東省，広西省，香港，台湾で見ることができる．国外の繁殖は北極地域のスカンジナビア半島から東へ，シベリア東北部，カムチャッカ半島とアラスカまで，南へはモンゴル，黒竜江とウスリー河流域，日本に及ぶ．渡り経路としてはモンゴル，バイカル湖，朝鮮，日本，アラスカ南部，千島列島，などで，越冬地として我が国南部，インドシナ半島，ヒリッピン，マレー半島，等東南アジア地域で，ときには西欧に至ることもある．

本種には計６亜種あり，我が国には３亜種が生息する．基亜種 *Phylloscopus borealis borealis* の国内分布は内蒙古自治区東部，黒竜江省，吉林省，遼寧省，河北省，河南省，山東省，山西省，寧夏自治区，青海省，甘粛省，雲南省，広西省，広東省，福建省，台湾(旅鳥)等で，台湾と福建省は部分的に越冬する．国外での繁殖はヨーロッパ北部，東部，東北アジア地域で，越冬は我が国東南部とヒリッピンである．北方亜種 *Phylloscopus borealis hilebata* は黒竜江省とウスリー河流域で繁殖し，国外ではモンゴル，サハリン，日本などで繁殖．インドシナ半島において越冬する．カムチャッカ亜種 *Phylloscopus borealis xanthodryas* の国内分布は山東省の青島と潍県，江西省の九江，福建省，広東省，広西省，台湾(旅鳥)で，国外での繁殖はカムチャッカ半島，千島列島北部で，越冬はヒリッピンである．

別に３亜種があり，北極亜種 *P. b. talovka* はロシア北部，シベリア北部，モンゴル西北部に分布し，東南アジア，フィリッピンで越冬する．外バイカル亜種 *P. b. transbaiclicus* の分布は東シベリア，外バイカル，モンゴル北部で，東南アジアで越冬する．アラスカ亜種 *P. b. kennikotti* の分布はアラスカ西部で，ヒリッピンで越冬する．

**生息環境と習性**　おもに湿気の多い針葉樹林，広葉樹との混交林及びその林縁部の潅木林で，とりわけ河川から遠くないヤナギ，シラカバ，針葉樹の混交林中でよく見かけ，渡りの期間に二次林の林縁部，果樹園，庭園敷地，住宅近傍の屋敷林などでも見られる．繁殖期には単独若しくは番いで行動し，渡りの時期には群れを作って行動する．ときには他のムシクイ類と混群を作る

こともある．行動は活発，敏捷，常に樹木の枝を飛び交い採食をおこなう．時折“drr-drr”あるいは“tzet-tzet”と鳴き，繁殖期には樹冠の枝で“tze-tze-tze”あるいは“tzi-tzi-tzi”と単調な鳴き声を絶えず繰り返す．

**食性**　おもに鞘翅目，鱗翅目，直翅目等の昆虫とそれらの幼虫を食している．

**繁殖**　繁殖期は６～７月，繁殖地へ到着するとすぐに番い形成のための行動を始める，雄は巣材を銜え，鳴きながら営巣場所の周辺を跳び回る．営巣は地上で，樹の切り株や倒木の上などにも営巣する．巣は半球形あるいは球形で草の茎，葉，細い枝，蘚苔などを巣材にし，内面には細い草の茎や獣毛を使用している．１巣卵数は４～７卵，卵の大きさは 15.0～17.5×12.0～12.5mm．

**渡り**　メボソムシクイは我が国の黒竜江省とウスリー河流域で繁殖する，北方亜種を除いて，すべて旅鳥で，一部が福建省，広東省，香港，台湾などで越冬する．春は４～５月，秋は９～10月に我が国の各地を渡る．

**生息状況と保護**　メボソムシクイの渡り時期における個体数は比較的豊富である．

### 468．ハシブトムシクイ (烏嘴柳鶯 *Phylloscopus magnirostris* Blyth)

英名　Large-billed Willow Warbler ; Large-billed Tree Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長 11～12cm．体の上面はオリーブ緑色，頭頂は暗緑色，眉斑は黄色，過眼線は暗褐色，両翼は暗褐色で２本の黄白色の帯があり，尾も暗褐色である．体の下面は淡黄色，喉，胸，両脇はくすんだ灰色．

本種とヤナギムシクイ，メボソムシクイの両種は非常によく似ており，野外での識別は容易でない．ただ，本種は２本の黄白色の翼帯がり，その後ろの１本が特に明瞭である．黄白色の眉斑もまた顕著で，嘴は全て黒色，体下面の黄白色は，他の２種と比較してやや黄色が強く，胸，両脇もくすんだオリーブ灰色で，尾羽外側の２対の羽縁に白色の細い線がある．鳴き声もそれぞれ異なる．もし，標本が有るならば，風切羽の羽式による識別に頼るべきで，本種は初列風切羽の第１羽が明らかに初列雨覆より長いく，初列風切第２羽は第７羽と等しいか，あるいはやや短い．メボソムシクイでは初列風切第１羽と初列雨覆の幾つかと同じ長さで，初列風切第２羽と第６羽が同じ長さか，あるいは稍長い．また，ヤナギムシクイの初列風切第１羽は初列雨覆より長く，初列風切第２羽は第９羽と等しいか，稍短い．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色，頭頂は暗緑色，腰は淡く明るい緑色，両翼は褐色で外弁の羽縁はオリーブ緑色，中雨覆と大雨覆羽の先端は黄色あるいは肌色を帯びた黄白色，翼の上面には２本の翼斑がある．中雨覆の翼斑は明瞭ではなく，欠失するものもあり，通常換羽後しばらくの間欠失する．したがってこの時期，翼斑が１本のものを見かけることがある．尾羽は褐色あるいは暗褐色，尾羽の外弁の羽縁は緑色，外側２対の尾羽内弁の羽縁が非常に狭い白色となっている．眉斑黄白色で明瞭，過眼線は暗褐色，頬と耳羽は黄緑色．体の下面は淡黄色あるいは黄白色，胸と両脇はくすんだオリーブ灰色，脇と翼下面の下雨覆は灰色を帯びた黄色である．

虹彩は暗褐色あるいは赤褐色，嘴は暗褐色，下嘴の基部は肌色あるいは黄白色，脚は灰褐色あるいは鉛色を帯びた褐色．

**各部位の測定**　体重♂６～12g，♀８～12g．体長♂114～125mm，♀116～125mm．嘴峰♂９～14mm，♀８～12mm．翼長♂59～72mm，♀62～71mm．尾長♂51～61mm，♀49～

56mm．跗蹠♂18～22mm，♀18～22mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内における分布は青海省東部，甘粛省西北部，西部，西南部，四川省北部の馬尓康，阿壩，東北部の達県，万源，中部の成都，雅安，楽山，峨眉，西部の康定，瀘定，甘孜，西南部の景東，景谷，勐腊　チベット南部の亜東，日喀則，錯那県勒，東南部の林芝，察隅，墨脱，昌都地区西南部，渡りの期間に湖北省，雲南省東南部でも見られる．国外の分布はカシミール，ネパール，ラダク，パキスタン，インド，ヒマラヤ山地区，ビルマ，スリランカなどで越冬する．

亜種の分化が見られない．

**生息環境と習性**　おもに標高2000～3500mの針葉樹と広葉樹との混交林に生息し，河川渓谷沿いの樹林帯を好み，林縁部の潅木叢や空き地へも出てくる．通常単独か番いで行動する．繁殖期には強くなわばりを構え，雄は巣の近くの高木で常に囀り，鳴き声は高く短い連続五つの音節からなっており，“tee-ti-ti-tu-tu-”と聞こえ，そのうち第１音節が最も高く第２，第３音節はわずかに低く，短い間隔で速やかに続き，最後の２音節は低く，稍長く鳴く．９～15秒間隔で，５～６回鳴きその後やや長い時間休んで繰り返す(Rolerts　1996)．活発に樹間を跳び回り，地上にも降りて採食する．

**食性**　昆虫，昆虫の幼虫をおもに食す．

**繁殖**　繁殖期は６～８月．通常地上に営巣し，岸辺の岩の上に営巣することがあり，根もとに近い樹洞を利用することもある．巣は球形で巣材は枯れ草の茎や葉，蘚苔類で構成され，内面には細い草の茎や獣毛が敷かれ，巣口は横に開口する．１巣卵数４～５卵，卵は白色で斑点がなく滑らか，大きさは16～20×12.7～13.9mm．

**渡り**　ハシブトムシクイは我が国では夏鳥で，雲南省とチベット地域では留鳥である．毎年４月中下旬に北部の繁殖地へ渡り，９月末から10月初めに繁殖地を離れる．

**生息状況と保護**　我が国ではハシブトムシクイの数はあまり多くない．

### 469．ヤナギムシクイ(暗緑柳鶯 *Phylloscopus trochiloides*　Sundevall)

英名 Greenish Willow Warbler；Greenish Warbler；Dull Green leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長10～12cm．体の上面は暗色のオリーブ緑色あるいはオリーブ灰緑色，眉斑は淡黄白色で長く明確，過眼線は暗褐色，両翼と尾は暗褐色，雨覆に明らかな翼斑がある．体の下面は灰白色でわずかに黄色を帯びる．下嘴は淡黄色．

本種とメボソムシクイ，ハシブトムシクイならびにフタスジヤナギムシクイの体型，大きさ，羽色が非常に似ており，野外では容易に識別することができない．しかし，ハシブトムシクイは体型がやや大きく，嘴が黒褐色，翼に二すじの翼斑があり，尾羽外側二対の羽の内弁に細い白色の縁がある．フタスジヤナギムシクイは明らかな二筋の翼斑がある．メボソムシクイは体型が明らかに大きく，嘴が太く，下嘴が淡黄色，眉斑が白色で長く顕著である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は同様．体の上面はオリーブ色で頭頂やや暗褐色．眉斑は額から目の上を後頭部まで，黄白色で長く明瞭で，暗褐色の過眼線は額から眼に沿って後頸部まで，頬と耳を覆う羽毛は黄色を帯びた暗褐色，腰はやや淡い暗褐色，両翼内側雨覆はオリーブ緑色，背の色も同様，外側雨覆は暗褐色で外弁の羽縁はオリーブ緑色，大雨覆先端は淡黄色あるいは淡黄白色ではっきりとした一筋の翼斑をなしている，中雨覆の羽端も淡黄白色をしており，一筋の細い条斑をなしている．初列風切第１羽は初列雨覆より長く，第２羽は第８羽より短い．たまに第８羽と同じ長さのものもある．体の下面は白色あるいはわずかに黄色を帯びた白色，両脇と下尾筒はと

りわけ帯黄色が顕著である．

虹彩は褐色，上嘴は黒褐色，下嘴は淡黄色．

**各部位の測定**　体重♂8～10g，♀6～10g；体長♂102～119mm，♀102～119mm；嘴峰♂10～11mm，♀7～11mm；翼長♂59～67mm，♀52～65mm；尾長♂47～53mm，♀44～58mm；跗蹠♂17～20mm，♀17～22mm(基亜種)．

**分布と亜種分化**　国内における繁殖は新疆省，青海，甘粛，チベット，四川，貴州，雲南等の我が国西部および西南部の各省，越冬は雲南省と海南省．国外分布はドイツ，ポーランド，フィンランド南部から東へウクライナ，ウラル，コーカサス，中央アジア，アルタイ，西シベリア，エニセイ川に至り，南は蒙古西北部天山，タジキスタン，カザフスタン，崑崙山，パミール，アフガニスタン，パキスタン，カシミール，ネパール，シッキム等の地域で，越冬はインド，パキスタン，タイ，インドシナ半島である．

本種の亜種分類に関しては，今日までさまざまな意見がある．Dement' ve and Gladkov(1954)は本種を6亜種に分けている．Vaurie(1959)は *P. t. nitidus* を独立種とし，本種を5亜種としている．Williams(1967)は *P. t. nitigus* と *P. t. plumbeitarsus* 亜種は繁殖分布上 *P. t. trochiloides* とは重ならず，中間型の出現も見られず，もし彼らが全て独立種だとしても4亜種が残ることになる．Howard and Moore(1980)はVaurieの意見を支持して，*nitidus* を独立種と認め，本種を5亜種としている．しかしながら，Howard and Moore(1991)は *plumbeitarus* も独立種として，本種の亜種を4亜種としている．鄭作新(1994)もこの意見を支持し，今日 *Plumbeitarsus* を独立種として中国名を双斑緑柳鶯と命名している．しかし，Svensson(1992)は同意せず *nitidus* と *plumbeitarsus* を分けて独立種とし，彼らと *trochiloides* は少なからず外部形態が類似し，しかも鳴き声，行動，生息環境の面でも完全に一致し，したがって彼は *nitidus* と *plumbeitarsus* を *trochiloides* の亜種とし，これにより本種を元通り6亜種とした．Helbig等(1995)は *nitidus* と *trochiloides* 間のミトコンドリアDNAを解析し，彼らはこの他多数亜種の間の多くと比較して同様に *nitidus* と種を超えて *P. trochiloides* のそれぞれの視点が一致したことを発見し，これを認めた．Inskipp et. al(1996)もまた *nitidus* と *plumbeitarsus* をヤナギムシクイ *P. trochiloides* と分けて6亜種ととした．しかし，彼らが繁殖分布上重なっておりながら，中間型がないことと *nitidus* と *trochiloides* 間のミトコンドリアDNAが明らかにその他の亜種間と比較して差が大きいことを考慮して，我々はこれをひとまず独立種として分けた．これが同一種であるかの合否はさらに将来の研究に待つ所である．

本種は計4亜種で，我が国には3亜種が分布する．基亜種 *Phylloscopus trochilides trochiloides* は青海省東南部の斑瑪(パンマ)，瑪泌(マミ)，陝西省南部の秦嶺山脈太白山，四川省北部の松潘(スンパン)，馬尓康(マルカン)，茂汶(マオウェン)，東北部の城口，万源，中部の成都，金堂，南充，雅安，天全，宝興，北西部の徳格，西部の康定，瀘定，巴塘，稲城，瀘霍，西南部の木里，馬辺，峨辺，美姑，雷波，南部の屏山，貴州省北部の綏陽，南西部の興仁，南部の惠水，中部の貴陽，雲南省西北部の中甸，徳欽，維西，貢山，西部の龍陵，景東，南部の西双版納(シーシュアンパンナ)，チベット南部の樟子，亜東，拉薩，加美，比姆比山口，洛山口，則拉宗，桑山口，里蘇姆，東南部の察隅，隆子，然鳥，左貢と昌都地区の西南部．国外分布はネパール，シッキム，等のヒマラヤ山地で，インド北部とインドシナ半島で越冬する．新疆亜種 *Phylloscopus trochilides viridanus* の国内分布は新疆ウイグル自治区西部の天山，喀什(カシ)，阿克蘇，西南部のパミール，崑崙山，中部および北部のアルタイ等である．国外分布はヨーロッパ東北部，アジア西部と中部，ドイツ東北部からポーランド北部，ロシア南部から

東，ウクライナ，ウラル山脈以南からエニセイ河上流部のクラスノヤルスク，ミヌシンスク，モンゴル西北部のアルタイ，天山，タジキスタン，アフガン東部，崑崙山，パミール，カシミール，ラダク，パキスタン等に分布する．チベット亜種 *Phylloscopus trochilides obscuratus* の国内分布は青海省東北部の祁連山，南部の雑多，玉樹，甘粛省西南部の天堂寺とチベット昌都地区北部等で，越冬は雲南省で，渡り期間に青海省，四川省西部の康定，西北部の石梁，道孚などを経由する．部分的にインドシナ半島，タイなどでも越冬する．

別の亜種ニシヒマラヤ亜種 P. t. ludlowi は，わずかにヒマラヤ西北部のカシミール，ラダク，パキスタン東北部に分布し，パキスタンとインド南部で越冬する．我が国では見られない．

**生息環境と習性**　主に針葉樹林，針葉広葉混交林，広葉林に生息し，林縁の疎林，潅木叢や谷沿いの樹林でも見られる．繁殖期は標高 1500～3900 m の亜高山から高山帯，針葉樹林あるいはシラカバとの混交林に生息する．渡りの季節から冬季は低山帯の渓谷森林で見られ，時には民家近くの林内や果樹園で単独行動しているのを見ることがある．常に単独かつがいで行動し，非繁殖期も小さな群れあるいは混群で採食行動をしている．行動は活発，敏捷で，日中休むことなく昆虫を求めて忙しく，蝶のようにひらひらと樹枝間を跳び回り，採食する．通常は樹冠部で採食するが，ときには低木あるいは潅木叢でも採食する．

**食性**　主に昆虫食．李桂垣等 (1984) は 7 ～ 8 月，四川省における剖検結果では 22 体の胃内容物は全て昆虫で，双翅目の穀象虫類，黄金虫類，鱗翅目幼虫類，膜翅目のアリ類であった．

**繁殖**　繁殖期 6 ～ 7 月．雄は繁殖地へ着いた後すぐに囀りをはじめ，なわばりを主張し，つがい形成後営巣を開始する．通常営巣場所は地上あるいは渓谷沿いの岩盤上，潅木の小枝の上に営巣する．李桂垣等 (1984) は四川省峨眉山の竹林中に 1 巣を観察した．巣は球形，側面開口，巣材はおもに枯れ草の茎，葉，苔類で構成され，内側には細い草の茎や獣毛が用いられていた．巣の大きさは外径 7 ～ 12cm，内径 5 ～ 7 cm，高さ 11～15cm，巣内の高さ 6 ～ 7 cm，巣口の直径は 3.5× 4 cm(Dement'ev and Gladkov 1954)．1 巣卵数は 5 ～ 6 卵，卵は白色，大きさ 14.0～17.1×11.2～12.3mm．

**渡り**　我が国の北部では夏鳥で，南部地区では夏鳥である地域と留鳥である地域があり，部分的には越冬のみという地域もある．通常 4 月末から 5 月に北部繁殖地へ渡り，10 月には南へ群れで渡る．

**個体群の状態と保護**　ヤナギムシクイは我が国の西部と西南部地域に分布し，個体数は比較的豊富である．

### 470．フタスジヤナギムシクイ (双斑緑柳鶯 *Phylloscopus plumbeitarsus* Swinhoe)

**英名**　Two-barred Greenish Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長 11～12cm．体の上面はオリーブ緑色，眉斑黄白色，過眼線オリーブ暗褐色，両翼と尾は黒褐色，翼に明らかな，白色あるいは淡黄色の 2 本の線がある．体の下面は黄色がかった白色．

本種とヤナギムシクイはよく似ているが，ヤナギムシクイは翼斑が 1 本で，たとえ有ったとしても細く不明瞭な線であり，さらに，本種は初列風切の第 8 羽までが第 2 羽より大きい．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色，頭頂はやや暗色，眉線は黄白色で長く明確で，嘴の基部から眼の上を経て後頭部に至る．過眼線はオリーブ暗褐色，眉線の下を嘴の基部から眼を経て後頭部まで延びている．翼の雨覆と風切羽は褐色あるいは黒褐色で外弁の羽縁はオリーブ緑色，内弁の羽縁と大雨覆，中雨覆の先端は白色あるいは淡黄白色，翼には明確

な２本の帯が見える．尾は黒褐色で，外弁の羽縁は黄緑色あるいは暗緑色．体の下面は白色あるいはわずかに黄色を帯びた灰白色，両脇はオリーブ灰緑色あるいは灰黄色，下尾筒は灰黄緑色．翼の縁は黄白色あるいは淡い黄色，翼の下面と腋羽は白色あるいは帯黄白色．

虹彩は褐色あるいは暗褐色，上嘴は黒褐色，下嘴は淡黄褐色，脚は淡褐色あるいは暗褐色．

**各部位の測定**　体重♂７～12.5g，♀６～8.5g．体長♂99～119mm，♀106～118mm，嘴峰♂９～11mm，♀９～10mm．翼長♂57～63mm，♀56～63mm．尾長♂44～56mm，♀40～48mm．跗蹠♂17～21mm，♀17～20mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内の主な分布は黒竜江省北部の大興安嶺，東北部の小興安嶺，南部の牡丹江，吉林省東部の長白山，延辺，南部の通化，渾江，中部の吉林，内蒙古自治区北部ホロンバイル盟の大興安嶺，河北省東北部の山地と北京(夏鳥)，遼寧省東南部の丹東，南部の大連，営口，庄河，盖県，西部の朝陽等で見られる．黄沫朋(1988)の報告によると，遼寧省においては旅鳥であるが，提供された標本の採集日は５，６，８月とまさに繁殖期にあたるので，遼寧省においても繁殖しているものと推測される．越冬は雲南省西部と南部，広東省，香港，海南島で，渡りの期間に河北省，山東省，山西省，西に至って青海省，甘粛省，四川省，貴州省，雲南省，チベット等において見られる．国外の分布はロシア沿海州，オホーツク海沿岸からモンゴル，シベリア，バイカル湖，アルタイ山地等，越冬はタイ，インドシナ半島である．

本種は外部形態，体サイズ等ヤナギムシクイ *P. trochiloides* と極めて似ている．かつてヤナギムシクイの１亜種とされていた(Dement'ev and Gladkov　1954，Vaueie　1959，Howard and Moore　1980，鄭作新　1976，趙正階　1985，李桂垣　1984，唐蟾蛛　1996)．しかるにWilloamson(1967)により本種とヤナギムシクイの繁殖分布地がアルタイ地域で重なっているにもかかわらず，中間型が見られないことを理由に，本種は分離して独立種とした．この視点は最近一部の学者から支持されることとなった(Howard and Moore　1991，鄭作新　1994)．しかし，Svensson(1992)は本種とヤナギムシクイは外部形態上わずかな違いの外は非常に似ており，かつ彼らの鳴き声，行動，生息環境など幾つかは完全に一致していることにより，ヤナギムシクイの一亜種であるとして，独立種であることに同意していない．彼の視点もまた一部の学者の指示を得ている(Inskipp et al. 1996)．そのために今日まで分類に関して論争が続いている．本種は外部形態上ヤナギムシクイと非常に似ているが，多少の違いがあり，さらに繁殖分布が重なっていながら中間型が見られないことから，彼らは生殖上完全に隔離されていると見られ，生殖上隔離されることは種の基本的な条件の一つであると我々は考えている．これにより，我々はひとまず本種を独立種とし，ヤナギムシクイと同一種であるか否かの分類学上の位置づけはさらなる研究に待ちたいと考えている．

**生息環境と習性**　おもに山地の針葉樹林，針葉広葉混交林に生息し，春の渡り時期には小さな群れを作り，林縁や路傍の二次林，小さな潅木叢で行動する．繁殖期には密生した針葉樹林または針葉広葉混交林の樹冠部分で行動することが多い．活発に活動し，常に樹枝間を跳び回り，“si－si－”と鳴き交わす．

**食性**　おもに甲虫類，カメムシ，ハエ，鱗翅目昆虫とクモ類等動物性食物．

**繁殖**　繁殖期５～８月．通常は渓流の傾斜の急な岸辺あるいは岩の隙間などで地面営巣．巣は蘚苔類で構成され，球形で側面に開口部がある．営巣はおもに雌が受け持つ．１巣卵数は５～６卵，卵は白色，サイズは15～15.8×11.3～11.6mm．抱卵は雌のみが担当し，雛は晩成で，育雛は雌雄共同でおこなう．

**渡り**　毎年4月東北地方で繁殖し，秋9月の末から10月にかけて南へ渡る．最も遅くは10月25日長白山で見られた例がある．

**個体群の状況と保護**　局部的な地域では普通に見られる．

**471．エゾムシクイ（灰脚柳鶯 *Phylloscopus tenellipes* Swinhoe）**
**英名 Pale-leegged Willow Warbler**

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長11～12cm．体の上面はオリーブ褐色，腰はくすんだ銷色，眉斑は黄白色，過眼線はオリーブ暗褐色，翼の上に2本の淡黄色の帯がある．下面は白色，両脇はくすんだ黄褐色．

近似種のフタスジヤナギムシクイ，メボソムシクイ，キマユムシクイと比較して体の上面が緑，腰の銹色がなく，キマユムシクイは通常翼の帯斑が1本である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ褐色あるいはオリーブ緑褐色．腰と上尾筒はくすんだ暗褐色あるいは銹色を帯びた褐色．眉斑は嘴の基部より後頭部まで明確な黄白色の線，眉斑の下にオリーブ暗緑色の過眼線がある．両翼は褐色あるいは暗褐色で外弁の羽縁はオリーブ緑色，雨覆と大雨覆の先端は黄白色あるいは淡黄白色，2本の淡黄色翼斑があり，前の1本は不明瞭なことがある．翼の外縁は明るい黄色．尾羽は褐色あるいは黒褐色で外弁の羽縁は茶色を帯びたオリーブ色，外側尾羽の内弁は狭く淡黄白色あるいは灰白色羽縁．頬，喉，胸，腹は白色あるいは灰白色，腹はわずかにくすんだ淡黄色，下尾筒は黄色あるいは肌色を帯びた黄色，両脇は淡黄色，またはくすんだ褐色あるいは淡黄緑色．腋羽は黄色あるいは肌色を帯びた黄色．翼下覆は白色ときにはくすんだ黄色．夏季になると古い羽の先端が摩耗し，翼斑が不明瞭になり，1本の翼斑が消滅していることがある．体の下面もより灰白色に変化する．しかし．秋になると換羽があり，体の上面ははっきりとくすんだ銹色となり，眉斑と体下面がくすんだ赤褐色，2本の翼斑ははっきりしている．初列風切羽第2枚目の長さは，第6枚目と第7枚目の間にあり，またはそれらと同じ位置にある．時には7枚目と8枚目の間であることもある．

幼鳥の第1年目の秋羽は成鳥に似ているが，上面の緑が濃く，下面がより白く，下尾筒の黄色が濃い．

虹彩は暗褐色，上嘴は黒褐色，下嘴は肌色，脚は淡い肌色．

**各部位の測定**　体重♂13g，♀10g．体長♂111～123mm，♀110～119mm．嘴峰♂9～12mm，♀9～11mm．翼長♂61～65mm，♀57.5～60.5mm．尾長♂48～54.5mm，♀45～49mm．跗蹠♂20～21mm，♀19.5～20.5mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内での繁殖は黒竜江省北部の大興安嶺，東北部の小興安嶺，東部の佳木斯，南部の牡丹江，吉林省東部の長白山，延辺，南部の通化，渾江で，渡りの中継地として遼寧省中部，西部，河北省東部，沿海各省から香港，海南省，越冬地は東南アジアである．国外の繁殖はロシア沿海州南部，ウスリー，千島列島，サハリン，北朝鮮と日本の北海道，越冬地はビルマインドシナ半島とマレー半島である．

Dement'ev and Gladkov (1945) および Howard and Moore(1980) は日本に分布する *P. borealoides* とまとめて本種を2亜種としたが，Martens (1988) と Weprincew et al (1989, 1990) は本種と *P. borealoides* は鳴き声，翼式，翼と尾の長さおよび行動，生息環境等形態と生態に異なる点が多く，これらを独立種とした．この意見は多くの支持を得ている (Howard and Moore 1991．Inskipp et al．1996)．

亜種分化はない．

**生息環境と習性**　エゾムシクイはおもに標高1700m以下の広葉樹林，針葉樹林，およびそれらの混交林に生息し，植生の密生したところを好み，渓谷を挟む森林にも見られる．繁殖期に単独またはつがいで行動するが，他の時期は群れを作って行動し，とりわけ渡りの時期は大きな群れをつくり，樹枝の間を活発に跳び回る．毎日，太陽が上らない未明から活動する．繁殖期には雄が高い樹の上で囀る．

**食性**　おもに蝶，蛾の鱗翅目幼虫をを食し，アリ，蝗虫等も食す．

**繁殖**　繁殖期は５～７月．渓谷に沿った森林中の傾斜面や樹根部など地上に営巣し，倒木の樹洞，岸辺の岩穴など薄暗く，湿気が多く，こけ類が密生する所を好んで営巣する．巣造りは雌が担当し，約１週間で巣造りは終わる．雄は多くは近くでなわばりを主張する囀りを，朝から日暮れまで休むことなく続ける．巣の形状は営巣環境により異なり，巣の多くは球状で，側面に開口部がある．巣材は蘚苔類で，少量の草本植物の根，茎，枝葉が混入し，内側には獣毛が用いられてる．巣の大きさは外径9.5～11.5cm，内径4～6cm，高さは10～12cm，深さは6～8.6cm，巣口は直径4～5cmである．巣造りが終わるとすぐ産卵を開始し，１日１卵ずつ産み，１巣卵数４～６卵，１年に１回繁殖する．卵は楕円形，光沢のある白色で斑点はない．卵の大きさは14～17×11.6～12.3mm，重量は1.5～2.3g．抱卵期間は15±１日間．雛は晩成型，雌雄共同で育雛する．雛の成長は極めて迅速で，孵化時の体重は1.1g，体長31mm，頭頂，後頭，肩等にわずかに絨毛が生えている他は無毛，赤裸の状態である．第２日目は体重が約倍に増えて2.1g，14±１日で巣立ちし，その後は親鳥と共に家族群として活動する．７月中下旬にはこの家族群が大量に現れる．

**渡り**　エゾムシクイは我が国では東北地方で繁殖し，雲南省，広東省，海南省等の南部地方へ渡る．毎年５月の初め東北地方の繁殖地へ渡り，９月中下旬頃南への渡りを開始する．渡りは常に群を構成する．

**個体群の状況と保護**　エゾムシクイは我が国の分布地での個体数は豊富である．

### 472 センダイムシクイ (冕柳鶯 *phylloscopus coronatus* Temminck et schlegel)

**英名**　Eastem erowned warbler; Eastrm crowned willow warbler; Temminck's crowned willowwarbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長11～12cm．体の上面オリーブ緑色，頭頂はやや暗色で中央に淡黄緑色の線がある；過眼線は暗褐色，眉斑は淡黄色．翼は暗褐色で外弁の羽縁が黄緑色，翼の上に１本の淡黄緑色の翼斑がある．体の下面は銀白色，下尾筒は黄色．

メボソムシクイ，フタスジヤナギムシクイ，ヤナギムシクイに似ているが，それらには頭央線がない．ヒマラヤムシクイには頭央線がありよく似ているが，翼斑が２本ある．体の下面はくすんだ黄色．野外での識別は難しくない．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色，頭頂から後頸までくすんだ褐色，頭頂の中央に淡黄色あるいは淡灰黄色の頭央線があるが，ときには不明瞭なものもある．明確な淡黄色の眉斑があり，ときには眉斑の先端部分が黄色で後半が黄白色のものがある．過眼線は暗褐色で，頬と耳羽は淡黄緑色で褐色と白色が混じることがある．背部は緑色で後ろへ行くほど淡くなり，腰から上尾筒は黄緑色にかわる．尾羽は暗褐色で，外弁の羽縁は黄緑色，外側２対の尾羽内弁の羽縁は淡灰白色．両翼は暗褐色で外弁の羽縁は黄緑色．大雨覆の先端は淡黄緑色あるいは黄白色でこれが１本の明確な翼斑を形成している．風切羽は暗褐色で外弁の羽縁は黄緑色．体の下面は銀白色で，ときにはわずかにくすんだ黄色を帯びることがある．下尾筒と翼角はオリー

ブ黄色，腋と下雨覆は白色もしくはわずかに黄色を帯びた白色．

虹彩は褐色あるいは暗褐色．上嘴は黒褐色，下嘴角は黄白色あるいは黄褐色，脚は褐色あるいは鉛色を帯びた褐色．

**各部位の測定**　体重♂6～11g，♀8～9 g．体長♂115～130mm，♀102～124mm．嘴峰♂9～12.5mm，♀8～12mm．翼長♂60～98mm，♀55～59mm．尾長♂45～57mm，♀44～50mm．蹠♂16～19mm，♀16～20mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内の分布は黒竜江省東北部の小興安嶺，朗郷，伊闌，伊春，東部の桂木斯，完達山，南部の牡丹江，帽儿山，玉泉，吉林省東部の長白山，延辺，南部の通化，渾江，西南部の四平，遼源，吉林省中部，遼寧省東部の丹東，鳳城，本溪，南部の大連，西部の朝陽，錦州，および北京等の地域では夏鳥，旅鳥，この他四川省の灌県，重慶等の盆地周辺の山地で見られる．渡りの経由地は遼寧省，河北省，山東省，山西省，陝西省，四川省，貴州省，雲南省，広西省，広東省，福建省，香港，台湾等で見られる．国外における繁殖はロシア極東南部の黒竜江流域，沿海州および朝鮮，日本などで，越冬地はインドシナ半島，マレーシア，インドネシアなどである．

亜種分化は Ticehurst(1938)，Dement'ev and Gladkov(1954) はこの種を２亜種に分け，イイジマムシクイ (艾吉柳鶯 P. ijimae) を亜種とした．Austin & Kuroda(1953) と Vaurie(1954) は両者は鳴き声と行動が異なり，彼らが別種であるとした．しかし，Vaurie(1967) は本種を大冕紋柳鶯 *P. occipitalis* の一種としたが，彼本人もこれに対して疑問を残している．Williams(1967)，Martens(1980) は大冕紋柳鶯と本種はわずかな形態上の違いと鳴き声の違いがあるが，彼らを同一種か否かを確定するには疑問があるとしている．Richman & Price(1992) は今日多数の学者がこれらを独立種としていることにより，DNA の研究によってこの２者の関係を明らかにしする必要があるとしている．

単型種，亜種の分化なし．

**生息環境と習性**　主要な生息域は標高 2000m 以下の山地で針葉樹林，針葉広葉混交林およびその林縁地帯，とりわけ林縁の疎林，潅木叢，河川沿いや路傍の疎林，潅木地帯でよく見られる．単独，あるいは番いで行動し，渡りの時期は群れを作り，他のムシクイ類と混群を作り，樹冠部で行動することが多い．枝葉の間を跳び回り停ることなく活発に動き採食する．繁殖期ははっきりと，朗々と鳴き，100m ほど離れていても聞こえるほどである．

**食性**　昆虫とその幼虫を食す．我々が長白山における４羽の剖検による胃内容は，シャクトリムシ，甲虫類，メイガその他の鱗翅目幼虫，鞘翅目，カゲロウ類，膜翅目等とその幼虫であった．

**繁殖**　繁殖期は６～７月．通常は地上営巣，地上近くの樹枝に営巣するとの報告もある (Dement'ev and Gladkov 1954．Flint et al 1984)．巣の多くは岩場の崖上で，岩の隙間あるいは窪みに作り，巣は球形あるいは杯状で，枯れ草の茎，葉，薛苔等の材料で構成されている．巣の大きさは外径９～12cm，内径は５～７ cm，高さは９～10cm，深さ７～９ cm．毎巣卵数は４～７卵，白色で光沢があり，斑点はない．大きさは 15.5～17×12～13mm．

**渡り**　我が国では夏鳥あるいは旅鳥で，毎年４月末から５月初めに我が国東北地方に渡り繁殖し，９月末から10月初めに南へ渡りを開始する．

**個体群の情況と保護**　局部的地域により個体数が多い

**473．ヒマラヤムシクイ (冠紋柳鶯 *Phylloscopus reguloides* Blyh)**
英名 Blyh's Crowned Willow Warbler；Blyth's Leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長10～11cm．体の上面はオリーブ緑色，野外で容易に識別ができる．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色，頭頂はやや暗色を帯び，額から後頸にかけやや灰黒色，淡黄色の頭央線があり，その両側は暗色の頭側線があり，過眼線は暗褐色で，頬と耳羽は淡黄白色あるいはやや褐色を帯びる．腰部の羽色はやや淡い．尾羽は暗褐色あるいは黒褐色で外弁の羽縁はオリーブ緑色．大雨覆と中雨覆の先端は淡黄緑色あるいは黄白色でこれにより２本のはっきりとした翼斑が形成されている．体の下面は白色あるいはくすんだ灰色，ときにはやや黄色を帯びる．また，ときにはくすんだ黄色を帯びるもの，また，胸部にわずかな黄色の条斑を見ることがある．下尾筒白色あるいは淡黄色．腋は黄色，翼の下雨覆は淡黄白色．

虹彩は褐色あるいは暗褐色，上嘴は褐色あるいは黒褐色，下嘴は黄色，脚は黄褐色あるいは角色をした褐色．

**各部位の測定**　体重♂6～11g，♀６～10g．体長♂95～118mm，♀99～112mm．嘴峰♂７～12mm，♀８～11mm．翼長♂56～63mm，♀56～63mm．尾長♂42～50mm，♀40～50mm．跗蹠♂17～21mm，♀17～19mm(西南亜種)．

**地理的分布と亜種分化**　国内の分布は甘粛省西南部と南部，山西省東南部，四川省，貴州省，湖北省，広西省，福建省，雲南省，チベット南部等(夏鳥あるいは留鳥)，渡り経由地あるいは越冬地として河南省，貴州省，湖北省，湖南省，安徽省，広東省，広西省，香港，海南省など．国外の分布はパキスタン，カシミール，ネパール，インド，バングラデシュ，ミヤンマー，ベトナム等．

本種には６亜種があり，我が国には３亜種が生息する．基亜種 *Phylloscopus reguloides reguloides* はチベット南部の亜東，聶拉木，錯那，易貢，波密，東南部の察隅，昌都地区の西南部，四川省北部の平武，西北部の徳格，西部の瀘定，爐霍，中部の成都，西南部の会東，木里，塩源，雲南省西北部の麗江，維西，中甸，西部の瀘水，雲龍，龍陵，東北部の永善，中部の昆明等の地に分布する．国外では印度東北部，ネパール，バングラデシュ，ミヤンマーなどで越冬する．西南亜種 *Phylloscopus reguloides claudiae* は国内で，甘粛省西南部および南部，陝西省南部の秦嶺山脈，山西省東南部，四川省北部の松潘，馬尓康，茂汶，東北部の城口，万源，蒼渓，東部の万県，東南部の秀山，南川，南部の成都，南充，宝興，天然，西部の康定，理塘，雅江，巴塘道孚，西南部の西昌，美姑，峨辺，貴州省西北部の威寧，西部の水城，北部の赤水，中部の惠水等に分布し，雲南西部に盈江，耿馬，南部の西双版納，新平蒙自，馬関，遮経，あるいは湖南省，湖北省，福建省等で越冬している．華南亜種 *Phylloscopus reguloides fokinensis* は我が国特有の亜種で，わずかに湖北省西部，貴州省東部の江口，南部の冊亨，望謨，東南部の雷山，広西省，海南省，福建省西北部と安徽省黄山等に分布し，留鳥で，場所によっては冬鳥となる．

その他我が国では見られない亜種としてカシミール亜種 *P. r. kashmiriensis* があり，インド西北部，カシミール，パキスタンに分布する．アッサム亜種 *p. r. assamensis* はインドアッサム地方，ミヤンマー北部に分布し，ミヤンマー南部で越冬し，Howard and Moore(1991) によると本亜種が我が国のチベット東南部に分布するとしている．ベトナム亜種 *P. r. ticehursti* はベトナム南部に分布する．

**生息環境と習性**　標高3500m以下の山地で常緑広葉樹林，針葉広葉混交林，針葉樹林と林縁の潅木叢に生息し，秋冬期には多く低山帯や山麓の平野地域で見られる．つねに単独またはつがいで行動し，冬季には３～５羽の小群，あるいは他のムシクイと混群で行動する．多くは樹冠部

で行動し，潅木叢や草地でも見ることがある．とくに渓谷，河川の林縁で多く見かける．終日活発に行動している．

**食性**　おもに昆虫とその幼虫を食す．李桂垣等(1984)によると，四川省における35体の剖検例の胃内容では食物の全てが昆虫で，その内多いものはコガネムシ類，ゾウムシ類，鱗翅目幼虫，アリ類，ハチ類，ハエ，アブ類などの昆虫であった．

**繁殖**　繁殖期は5～7月．通常標高2440～3000m間の開けた林間の急坂，岩の穴等で営巣し(Roberts 1992)あるいは樹洞中に(Walters 1980)球状または杯状の巣を作る．巣材は蘚苔類で構成され，少量の枯れ草，獣毛が混ざっている．内側には獣毛，羽毛が敷かれている，1巣卵数は4～5卵で光沢のある白色無斑であるが，ときにはわずかに赤色斑があることがある．卵の大きさは13.6～17.0×10.9～13.0mm(Baker 1924)で，抱卵は雌のみが行なう(Roberts 1992)．

**渡り**　我が国では夏鳥であるが，部分的に繁殖地から南へ渡り，雲南南部で越冬する．通常3～4月の間に繁殖地へ渡り，10～11月に繁殖地を離れる．

**個体群の情況と保護**　ヒマラヤムシクイは我が国では個体数が多い．

### 274．カイナンムシクイ(海南柳鶯 *Phylloscopus hainanus* Olsson et Alstrom)

英名　Hainan leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長約10cm．体の上面は緑色，下面は鮮黄色．淡黄色の頭央線，黄色の眉斑，緑色の頭側線，過眼線は暗褐色，翼斑は2本の淡黄白色，外側2対の尾羽外弁は白色．

オジロムシクイとキムネムシクイは本種によく似ているが比較するとオジロムシクイより体の下面が淡黄色，頭側線が暗色，尾羽の外側第1羽が明らかに白色である．キムネムシクイは頭側線が暗色，尾羽の外側は白色ではなく，体の下面，頬，喉，胸，下尾筒は鮮明な黄色，腹部の色は淡い．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面は緑色，淡黄色の頭央線が嘴の基部から後頭部に達しており，頭側線は鮮やかな緑色，そのすぐ下に鮮明な黄色の眉斑が，嘴の基部から後頸へ達している．過眼線は暗緑褐色で鮮明，耳羽と頭側は淡黄色．背，肩等上面は鮮明な緑色，腰はやや淡く，黄色を帯び，翼の雨覆羽の内弁は暗褐色，外弁は鮮やかな緑色，大雨覆第6羽，第7羽は先端に明らかな淡黄色の翼斑があり，中雨覆も先端に淡黄色の翼斑があるがより狭い，これが中雨覆と大雨覆の翼斑の太さの違いとなっている．三列風切羽の外縁と体の上面とは同色で，風切羽は暗褐色，外縁は鮮やかな緑色で体の上面と同色，初列風切羽の外縁はやや淡い．尾羽は暗褐色で外向の羽縁は鮮やかな緑色，外側の尾羽2対の内弁は全て白色，次の1対の内弁は白色の細い羽縁がある．体の下面は鮮やかな黄色，翼の下覆は黄白色．

上嘴は黒褐色，下嘴は淡色，跗蹠は暗褐色．

**各部位の測定**　嘴峰12.2～12.6mm．翼長49.5～56.0mm．尾羽35.5～41.0mm．

**地理的分布と亜種分化**　本種はOlsson，Alitsrom & Colston(1993)，我が国の科学院動物研究所と昆明動物研究所により，それぞれが海南省において採集された標本に基づいて発表された新種で，この標本はもともとキムネムシクイの海南亜種 *Phylloscopus cantator goodsoni* として認定されたものである．しかし，olsson et al(1993)はキムネムシクイは海南省には分布せず，上述の標本はこれまで未発表の新種であるとして，カイナンムシクイ *P. hainanus* と命名し，キムネムシクイと区別した．キムネムシクイは眉斑がより暗色で，外側尾羽の内弁は白色ではなく，頬，喉，胸と下尾筒が鮮やかな黄色だが，腹部の色は淡く，そのほか2者の鳴き声が異なってい

る．今日わかっているところでは本種の分布はわずかに海南省の中南部の琼中，南部の吊羅山，西南部の興峰嶺などで，我が国の特産鳥類である．亜種分化は見られない．

**生息環境と習性**　生息域は海南省亜熱帯山地の二次林で，低山の林縁，道路の近辺でよく見られ，よく茂った密度の高い成熟した熱帯林では少ない．単独または小群で行動する．繁殖期には雄が変化に富んだ鳴き声で囀る．

**食性**　おもに昆虫とその幼虫を食す．

**繁殖**　繁殖期は３～５月．Olsson et al によると，1992年４月末海南省尖峰嶺自然保護区において道路近くの崖，高さ1.7m，雛のいる巣を発見した．巣は球形で側面に開口し，巣の外層は主に細長い円錐形の花序と草の葉で，ほかに少量の細い草の根で構成されている．内側は植物の繊維，薄い樹皮で造られ，羽毛が敷かれている．

**渡り**　留鳥．

**個体群の情況と保護**　現在海南省南部と西南部尖峰嶺など局部的な地域にのみ分布し，個体数もきわめて少ない．すでにBird Life Internationalにより世界レッドデータブックにランクされている．

### 475．オジロムシクイ(白斑尾柳鶯 *Phylloscopus davisoni* Oates)

英名　White-taile Willow Warbler；White-tailed leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類．体長約10cm．体の上面はオリーブ黄緑色，淡黄緑色の頭央線，オリーブ暗褐色の頭側線，淡黄色の眉斑，暗緑褐色の過眼線，両翼は暗褐色で羽縁の色は背部と同色，翼には２本の淡黄色の翼斑がある．尾羽の外側１対は内弁が白色．体の下面はわずかに黄色が滲む白色．

ヒマラヤムシクイに似ているが体型が稍大きく，尾羽の最外側内縁に細く白い線がある．眉斑と体の下面は比較して白色で，本種はより黄色である．カイナンムシクイと本種もまたよく似ているが，カイナンムシクイの体の上面は比較して緑色で，眉斑と体の下面がより黄色，頭側線は淡い．尾羽の外側２対内弁が白色である．しかし，本種の体の下面は淡い黄色で，頭側線はより暗色，尾羽外側１対の内弁は白色，次の１対の内弁の羽端がわずかに白色である．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体の上面はオリーブ緑色あるいはわずかに黄色を帯びたオリーブ緑色，オリーブ黄緑色を呈する．頭頂に淡黄緑色の頭央線があり，ときには灰色を帯びた淡灰黄緑色のこともある．眉斑は淡黄色で長い，眉斑と頭央線の間の頭側線は明確なオリーブ暗褐色．過眼線は暗緑褐色．頬と耳羽は褐色を帯びた淡黄緑色．腰は鮮やかな黄緑色，翼は暗褐色で，外弁羽縁が黄緑色，中雨覆と大雨覆羽の末端は淡黄色，これが２本の黄色の翼斑を形成し，ときには前の１本が不明瞭なこともある．尾羽は暗褐色で外弁羽縁が黄緑色，尾羽外側１対の内弁のほとんどが白色，次の内弁の先端が白色．体の下面は黄色を帯びた白色で，胸側と両脇はわずかにオリーブ緑色を帯びており，腹中央は乳白色，下尾筒は淡黄色あるいは淡黄白色．初列風切の第２羽た第８羽より大きいか，あるいは第８羽と第９羽に等しい．

虹彩は褐色，上嘴は黒褐色，下嘴は肌色あるいは象牙色，脚は淡褐色あるいはオリーブ褐色．

**各部位の測定**　体重♂５～７g，♀７～11g．体長♂102～106mm，♀101mm．嘴峰♂８～10mm，♀９～10mm．翼♂54～60mm，♀52～55mm．尾長♂41～47mm，♀43．跗蹠♂17～19mm，♀16～18mm(基準亜種)．

**地理的分布と亜種分化**　国内分布は四川省中部の成都，東南部の秀山，南川，南部の古蔺，西部の康定，貴州省北部の綏陽，遵義，中部の貴陽，龍里，息峰，東北部の江口，東南部の榕江，

雷山，南部の望謨，雲南省西北部の貢山，麗江，西部の騰冲，盈江，潞西，龍陵，鳳慶，双江，永徳，保山，漾濞，永水，西南部の瀾滄，東南部の蒙自，中部の昆明，湖南省と福建省の挂墩等の地域で，国外の分布はベトナム北部，ミヤンマー北部，タイ東南部，インドシナ半島である．

本種には５亜種あり，うち我が国には３亜種が分布する．基準亜種 *Phylloscopus davisoni davisoni* は雲南省西北部麗江，貢山，西部の騰冲，盈江，龍陵，潞西，鳳慶，永徳，双江，保山，永平，漾濞，南部の瀾滄，西双版納と西部の盧定，康定等に分布し，国外ではミヤンマー，インドシナ半島で越冬する．西南亜種 *Phylloscopus davisoni disturbans*，四川省中部の成都，東南部の秀山，南川，南部の古蔺，貴州省北部の綏陽，遵義，中部の貴陽，龍里，息峰，東北部の江口，東南部の榕江，雷山，南部の望謨，雲南省東南部の蒙自，中部の昆明と湖南省等に分布する．国外では報告がない．桂墩亜種 *Phylloscopus davisoni ogilviegranti*，は福建省の桂墩に分布し，国外ではベトナム北部に分布する．

その他の２亜種は我が国では見られない．*P. d. intensioe* はタイ東南部とカンボジア北部に分布，*P. d. klossi* はインドシナ半島南部に分布する．

**生息環境と習性**　主に標高3000m以下の落葉あるいは常緑広葉樹林，針葉樹との混交林，針葉樹林中に生息し，二次林，潅木叢にも生息する．単独あるいはつがいで行動するほか，３～５羽の小群で行動する．樹冠部で行動することが多く，ときには潅木叢の林床部で採食することがある．活発で，行動は敏捷，枝の間を跳び回り，観察が容易でない．繁殖期間の鳴き声は清らかで耳を楽しませる．

**食性**　主として昆虫とその幼虫を食し，ときには植物の果実，種子も食することがある．呉至康等(1986)によれば貴州省における20羽の剖検胃内容は昆虫17回，クモ類１回，果実２回，種子１回であった．

**繁殖**　繁殖期は５～７月，地上で営巣し，１巣３～４卵である．

**渡り**　ほとんどが留鳥であるが，一部渡るものがある．

**個体群の情況と保護**　オジロムシクイは我が国の長江以南に生息し，その数は多くない．

### 476．マユグロムシクイ，キムネムシクイ（黒眉柳鶯，黄胸柳鶯 *Phylloscopus ricketti* Slater）

＊世界の鳥の和名　Ⅶ－中国の鳥(改訂版　山階鳥類研究所 1983)によるキムネムシクイ *Phylloscopus cantator* Yellow-brreasted Willow Warbler は別種と思われる．

英名 Balck-browed Willow Warbler，Sulphur-breasted Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長９～10cm．体の上面はオリーブ緑色，頭頂の額から後頸に至る淡緑黄色の頭央線はきわめて顕著で，両側の頭側に黒色の頭側線があり，黄色の眉斑，黒色の過眼線がある．両翼に淡い黄色の翼斑２本があり，尾羽の外側一対の内弁が白色．体の下面は明るい黄色，両脇はくすんだ緑色．

よく似ているカイナンムシクイでは頭側線が緑色で，尾羽の外側２対の内弁が白色であることが異なる．オジロムシクイとヒマラヤムシクイは頭側線が淡く，体の下面が淡い黄白色，尾羽の外側１対の内弁が白色かあるいは内弁の外縁が白色である．これらのことから野外での識別は難しくない．

**形態羽色**　雌雄の羽色は似ている．体上面は緑色，頭央線は幅広い淡緑黄色で額から後頸部まで顕著である．頭側線は黒色あるいは灰黒色．眉斑は黄色，過眼線は淡黒色．頬と耳羽はわずかに緑色を帯びた淡黄色．背，肩，腰と上尾筒はオリーブ緑色あるいは明るい緑色，両翼と尾羽は暗褐色で，外縁が黄緑色，中雨覆と大雨覆の先端は淡黄色あるいは淡黄緑色で，２本の黄色翼斑

を形成している．尾羽の外側1対の内弁羽縁が黄白色．体の下面は鮮やかな黄色，両脇は緑色を帯びた白色，翼の下覆は黄色を帯びた白色．

虹彩は暗褐色，上嘴は褐色あるいは黒褐色，下嘴は黄色あるいは橙黄色，脚は淡緑褐色あるいは紫緑色．

**各部位の測定**　体重♂6～8g，♀8g，体長♂99～110mm，♀100mm．嘴峰♂10～11mm，♀10mm．翼長♂54.7～60mm，♀53～57mm．尾長♂38.5～45mm，♀37～43mm．跗蹠♂16～17mm，♀16mm．

**地理的分布と亜種分化**　国内では四川省，貴州省，雲南省，湖北省，湖南省，広東省，広西省，福建省，海南省，台湾などに分布し，国外ではベトナム，ラオスなどに分布する．本種の亜種分化に関しては，異なる意見が存在してきた．Vaurie(1959)はミナミムシクイ山柳鶯 *P. trivirgtus* の亜種であるとした．鄭作新(1976，1987)はキムネムシクイ黄胸柳鶯 *P. cantator* の亜種とした(*P. cantator* と *P. ricketti* の中国名が混同して記されている)．しかし，多数の学者が認めるように，本種は形態上も鳴き声の上でも両種とは明らかに異なり，本種を独立種としている(Howard and Moore 1980，1981．De Schauensee 1984．Alsttrom 1995．Inskipp et al 1996)．鄭作新(1994)の新出版《中国鳥類種和亜種分類名録大全》中にもこの視点によって，本種をキムネムシクイ黄胸柳鶯 *P. cantator* の単独種としている．

本種には基準亜種 *P. ricketti ricketti* と海南亜種 *P. ricketti goodsoni* の2亜種があり，前者は主に四川省中部の成都，峨眉山，楽山，雅安，南充，東北部の達県，東南部の涪陵，貴州省北部の赤水，黄泥埔，東北部の江口，中部の貴陽，南部の冊亨，羅甸，三都，雲南省東南部の蒙自から湖北省，湖南省，広西省，広東省，香港，福建省西北部等に分布し，国外ではベトナム北部に分布し，ラオス，ベトナム南部で1部が越冬する．海南亜種はわずかに海南省西南部と東南部の山地に分布し，Alstrom colston & Olsson (1993)は本亜種をヒマラヤムシクイ冠紋柳鶯 *P. reguloides* の同物異名であるとし，マユグロムシクイ(黒眉柳鶯 *P. ricketti*)は海南省には分布しないとしている．Alstrom et al (1995)は本亜種を *P. reguloides* としている．

**生息環境と習性**　2000m以下の低山帯で広葉樹林の二次林中に生息し，針葉樹と広葉樹の混交林，林縁部の果樹園にも生息する．繁殖期の単独あるいはつがい行動を除いて，他の時期には群れを作り行動し，他の小鳥類と混群を作ることもある．つねに枝の間を活発に跳び回り，林床の潅木の間で採食することがある．鳴き声は高らかに明瞭．

**食性**　昆虫とその幼虫を食す．呉至康s(1986)によると貴州省における3羽の剖検胃内容では全てが昆虫であった．

**繁殖**　繁殖期は通常4～7月．林床の斜面にある洞穴，巣は球形，巣材は全てが蘚苔類で構成される．1巣6卵で，白色光沢があり無斑，大きさは15.5～16.5×10.5～12.5mm(La Touche 1925～1930)．

**渡り**　夏鳥．広東省南部と香港では越冬する．

**個体群の状況と保護**　La Touche(1925～1930)の報告によるとマユグロムシクイはかつて福建省，雲南省一帯には個体数が豊かであり，渡りの時期には大群が見られたが，人口の増加，環境の変化により今日では非常に少なくなり，明らかに個体数が減少している．しかし現在なお特別に保護措置がとられていない．

### 477．ガビムシクイ(峨眉柳鶯 *Phylloscopus emriensis* Alstrom et Olsson)

英名 Emei leaf Warbler

**野外識別特徴**　小型鳥類，体長10～11cm．体の上面はオリーブ緑色，淡黄色の頭央線，前方が不明確な頭側線は灰緑色，眉斑は淡黄色，過眼線は暗灰緑色．翼に２本の淡黄色翼斑，尾羽の外側２対の外弁羽縁が白色．体の下面は白色，両脇は灰緑色を帯びる，下尾筒は淡黄色．

ヒマラヤムシクイとオジロムシクイは本種と非常によく似ており，野外での識別は困難である．しかし，本種の頭央線は常々不明確で，特に前部分が不明瞭．頭側線の灰緑色はより淡く，尾羽外側２対の内弁羽縁の白色はより狭い．その他鳴き声が異なり，本種は比較的軽く穏やかに鳴き，その声は“tu-du-du，tu-du”あるいは“tu-du-du-du”と聞こえる．

**形態羽色**　雌雄はよく似ている．体の上面はオリーブ緑色，頭央線は不明瞭で淡黄色，その前部は特に不明確，ときにはぼんやりと見え，あるいは欠失していることもあり，後部は明確で幅広く，黄色も明確．頭側線は前部が暗灰緑色で，後に向かって次第に灰緑色となり，前部は後部に比較して暗色である．眉斑は黄色で長く顕著，嘴の基部から眼の上を通り耳羽の後縁に達する．眉斑は眼の上部から嘴の基部まで次第に細くなり，嘴の直前で消失し，鼻孔まで達していない．過眼線は暗灰緑色で，嘴の基部から眼を通り耳羽の後縁に達し，耳羽と頬は淡灰緑色で不明瞭な淡黄色を帯びることがある．眼の下に淡黄色の三日月斑があり，その他の頭側と後頸は暗緑色．肩，背は暗緑色，腰と上尾筒の羽縁は鮮やかな淡緑色．翼の小雨覆は腰との色と似ており，中雨覆は暗緑色，前５枚の羽端２mmほどが緑黄色で，明らかな第１翼斑を形成し，大雨覆の内弁が烏黒色だが羽縁が細い緑色で，前６枚の先端約2.5mmほどが淡黄色を呈し，これが幅の広く，明確な第２翼斑を形成している．初列雨覆は烏黒色で羽縁は細い緑色を呈している．初列風切羽は烏黒色で外弁の羽縁は細い黄緑色をしており，次列風切羽も外弁羽縁が黄緑色，三列風切羽の羽縁は黒色，外縁は緑色，風切羽の内弁羽縁は細い白色となっている．中央の尾羽は緑黒色で，羽縁は淡い緑色，とくに基部は明らかである．その他の尾羽の内弁は黒色，外弁は緑黒色，外側１対の尾羽内弁の羽縁はごく細い白色で先端は不明瞭になっている．体の下面は白色で不確かな淡黄色の条紋があり，両脇は淡灰緑色を帯びており，下尾筒は淡黄色．初列風切羽の第６枚目と第７枚目が同じ長さである．

上嘴は黒色，下嘴は淡橙緑色，跗蹠は浅紅白色．

**各部位の測定**　体長100～110mm．嘴峰♂12.5～12.9mm，♀12.3mm．翼長♂57.5～59.5mm，♀58.5mm．尾長♂41.5～44.0mm．♀42mm．跗蹠♂18.1～18.3mm，♀18.1mm．

**地理的分布と亜種分化**　本種はAlstrom & Olsson(1995)による四川省峨眉山採集の標本をもとに新種とし，現在わずかに峨眉山においてのみ分布が知られており，峨眉山と同様の環境を有する四川省西南部，雲南省，貴州省などに生息する可能性が推察される．我が国特有の鳥類である．

亜種の分化はない．

**生息環境と習性**　主に林床の植物が発達している亜熱帯山地の広葉樹林あるいは針葉樹との混交林の標高1000～1400mの峨眉山万年寺，洪椿坪，仙峰寺と華厳頂の間に生息し，冬季は山麓地帯へ渡る．つねに単独あるいはつがいで行動し，時折軽い単調な鳴き声をだす．

**食性**　昆虫食．

**繁殖**　繁殖期は４月下旬から６月末まで，繁殖状況の詳細は知られていない．

**渡り**　渡りの状況は不明であるが，留鳥ではないかと推察されている．

**個体群の状態と保護**　我が国の峨眉山でのみ見られ，分布域が狭く，個体数も少なく，絶滅の虞があり，保護に注意を要する．